

# 濟生

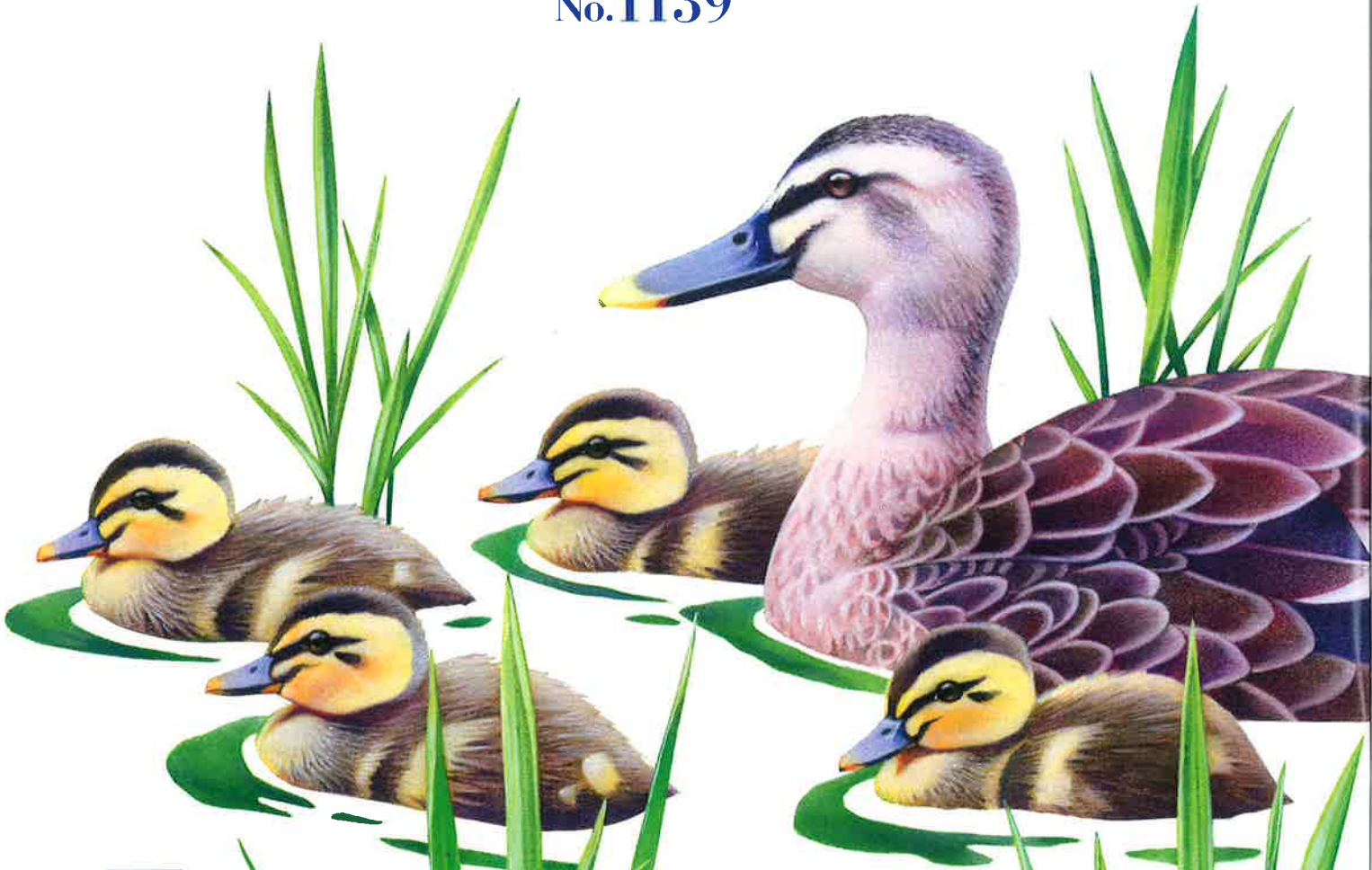
SAISEI

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1139

「NEWSな濟生人」

地域トップの  
ケアミックス病院を  
目指す



5

May 2024

社会福祉法人

恩賜  
財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>



# 濟生会の 不易流行論

188

理事長 炭谷 茂  
Shigeru Sumitani

## 過疎地の明日



地震の被害の実相は、やはり現地でないと分からないものがある。  
4月2日、金沢市から「のと里山海道」で輪島市に向かった。案内してくれたのは伊丹市を拠点として災害救援活動を世界的に行なうNPO日本レスキュー協会・多田修理理事長などのメンバーである。

この協会は、震災直後から現地入りし、災害救助犬を連れて倒壊した家屋で下敷きになった人の発見、救助に当たった。3カ月経過した今は、能登町に拠点を置き、被災ペット関係の支援を続けている。  
当日は、現地での長い支援活動をもとに車中で被災状況を説明してくれた。自動車専用道路

である「のと里山海道」は、随所で路面が隆起し、寸断されている。土砂崩れし、家屋が倒壊していた。輪島市に近づくにつれその数は増えていく。輪島市内では焼失した朝市、倒壊したビルなどを間近に見ると、被害の大きさを実感した。  
復興までどれだけの時間がかかるのだろうか。3面が海で囲まれた半島部の大きなハンディキャップがある。上下水道の被害は大きい。産業は、農林漁業、観光、漆器が主で、経済的に劣位にある。

何よりも問題なのは、過疎化と高齢化である。高齢化率は、珠洲市が50%を超え、輪島市も46%と高い。当日金沢市内の避難所を訪れると、ほとんどが高齢者だった。介護を要する人も多かった。これまでの被災地では見なかったことだ。復興対策は、従来とは異なった視点が必要である。

☆ ☆  
40年以上前に過疎対策の仕事をしていた。昭和45年に過疎対策法が制定され、過疎対策が始動したころだ。過疎化に苦しむ島根県などが運動してきた法

律だが、一般には「過疎とはなに？」と関心が薄かった。ちなみに私が愛用する初版の昭和44年「角川国語辞典」には「過疎」という言葉は、掲載されていない。  
島根県は、過疎問題について政治家やマスコミの理解を得るために苦労したと伝えられる。一部の経済学者や官僚は、「非効率的な農業等に従事する人が、第2次、第3次産業で働くため、地方から都市への移動は、望ましいことだ」と言い切った。  
当時実際に仕事で過疎地を訪れ、廃屋や荒れた山林などを見ると、日本の故郷は、消えるのではないかと案じられた。その状態は、今ではさらに進み、能登半島の市町は、過疎であり、高齢化が進む。

☆ ☆  
全国多くの半島は、同様な運命をたどっている。みすみ病院のある熊本県の宇土半島も、同じである。

☆ ☆  
日本の故郷を守り、均衡ある発展のためには半島振興が不可欠である。その道筋を能登半島が示してくれたらうれしい限りだ。

不易流行 (ふえきりゅうこう)：不易は永遠性、流行はその時々々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。

think!

sync!



知る・見つける・支える

## ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion **シンク!**

ソーシャルインクルージョンを  
多くの人々に知ってもらうための  
ウェブメディアです。

サイト名は「知る・見つける・支える ソーシャルインクルージョン」。  
愛称の「シンク!」は、social inclusionから名付けました。  
think (思いを巡らせる)、sync (共感する、シンクロする) という意味も込めています。

濟生会内外のさまざまな活動の記事を通して、ソーシャルインクルージョンの  
実現を目指す人々の思いを知り、共感し、そして仲間になってほしい。

それが濟生会の思いです。

知る・見つける・支える  
ソーシャル  
インクルージョン  
Social Inclusion **シンク!**



社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビルディング21階  
TEL: 03-3454-3311(代)  
Email: headoffice@saiseikai.or.jp

<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/>







## 5月のたよりが聞こえる カルガモ

春から初夏に話題になるカルガモのお引越。親鳥を必死に追

いかける様子にほっこりする。日本の多くのカルガモはカモの中

で珍しく一年通して見ることが出来る留鳥で、繁殖も子育ても日本で行なうのだ。

ヒナは生まれてすぐに歩いたり泳いだりできるため、餌を求めて産卵場所の草むらや竹藪から水辺へお引越し。ときに側溝に落ちた我が子を心配する母鳥、野良猫に襲われてもしないか、人間も固唾を呑んで見守る。ニュースで見かけるのはこ

のタイミングだ。

カルガモ親子の決死のお引越し、大変なのは実は母鳥で父鳥はどうしているかと言うと、オスだけの群れを形成し子育てに関与しないらしい。全く！この忙しい時にどこで何をしているのか。

しかも、ほかのカモのオスは繁殖期になるとメスにアピールするため派手な羽に生え変わる。一方のカルガモは変わらない。日本で繁殖するカモがほかにいないので派手になる必要がなかったとの説もあるらしいが……。恋も育児も「もっとシヤキツとして！」と言いたくなる。

この原稿が掲載される頃は無事新居に引っ越しをして母子で気持ちよく水辺を泳いでいるのか。それとも人間のように引越しの片付けで忙しいのだろうか。ヒナが立派に成長できるといいなあ。

(N)

### 表紙のことは 親子で迎える新しい門出

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

春は引越しのシーズン。新たな場所でドキドキする毎日をご過ごしている方も多いでしょう。親子でお引越しをするカルガモに出会ったことはあるでしょうか。親も子も顔の様子が笑顔に見えるのぼのとし

ていて、親を追う一生懸命な雛たちの初めての引越しは健気で、きっと応援せずにはいられないことでしょう。初めて社会に出た時のわくわくして懸命だった気持ちを思い出させてくれる姿です。

# 濟生 SAISEI

MAY, 2024

## CONTENTS

**NEWSな濟生人** 地域トップのケアミックス病院を目指す！ 臨床研修病院として医師育成も使命に  
院長 星野 豊さん + 副院長・臨床研修プログラム責任者 赤塚英信さん 06

**濟生会交差点** 〈見守り方改革で目指せDX化〉スマートベッドシステム導入で、新たな働き方をつくる／〈コロナ禍に負けない〉新型コロナ専用のNPPV導入で、学会「医療の質特別賞」受賞／〈利用者の職員採用〉ひたむきな努力で一般就労を実現。支援をされる側からする側に 10

**巻頭コラム** 濟生会の不易流行論 03  
過疎地の明日 理事長 炭谷 茂

5月のたよりが聞こえる——カルガモ 05  
表紙のことば 久保田真由美

濟生会生活困窮者支援事業優良事業 16

災害支援 令和6年能登半島地震 17

ソーシャルインクルージョン 20

この人 蝶花楼桃花 26

口福にっぽん 吉井省一 28

だれでもかんたん てづくりおもちゃ 30  
いまいみさ

TOPICS 32  
大雑報 63



題字協力：石飛博光  
アートディレクション：  
OVO INTERNATIONAL



# 地域トップのケアミックス病院を目指す！

経営改善が進む福島総合病院。課題ごと  
に幹部職員が中心となってミッションを遂

行、コロナ禍は福島県立医科大学との連携  
関係を生かして地域医療の崩壊を防ぎまし

た。4月からは基幹型臨床研修病院として  
研修医の育成を開始。若手医師育成の一翼  
を担います。院長の星野豊さんと副院長の  
赤塚英信さんに同院の目指す医療について  
聞きました。

(茨城・龍ヶ崎済生会病院

済生記者 堀越琴美)

**堀越** 始めに福島総合病院の歴史を教えてください。

**星野** 当院は1929（昭和4）年に福島  
県庁舎内にできた福島診療所から始まりま  
す。産婦人科・外科・小児科・整形外科・  
救急などを新設しながら81年には総合病院  
の名称を掲げるまでになりました。200  
6年に現在地に新築移転、私は翌07年に当  
院に着任し、13年の電子カルテ導入、19年  
の地域包括ケア病棟開設などを経て、21年  
に院長に就任しました。

**堀越** 今年は元日に能登半島地震が発生し



副院長・臨床研修プログラム責任者

**赤塚英信** さん

院長

**星野 豊** さん

**福島総合病院**

左はインタビューの堀越さん

## 臨床研修病院として医師育成も使命に



4月に入職した研修医2人と赤塚副院長。済生会の理念を引き継ぐ意思を育てる

ました。各地  
の済生会から  
被災地支援に  
駆けつけ、龍  
ヶ崎済生会病  
院も（石川）  
金沢病院に看  
護師を派遣し  
ました（1月  
25日〜2月8  
日）。東日本  
大震災では大  
変な苦勞をさ  
れたと思いま  
すが、支援に  
回る立場とし  
てどのように

感じていますか。  
**星野** 東日本大震災では、（石川）金沢病院  
福井県済生会病院をはじめ全国から看護師  
を派遣していただき、病棟業務などを助け  
ていただきました。  
**堀越** 改めて全国組織の済生会の力を実感  
しますよね。  
**星野** 能登半島地震では当院から看護師を  
3月14日から21日まで金沢病院に派遣。そ  
れに先立つ1月30日から2月3日まで、福  
島県医師会の要請でJMATとして当院の  
看護師、薬剤師、事務職を派遣しました。  
東日本大震災で受けた支援のお返しができ  
たのではないかと感じています。  
**堀越** 一方、新型コロナウイルスの流行から  
4年が経ちました。コロナ禍はどのように  
取り組んできましたか。



入職時オリエンテーション。研修医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ18人が新たに地域医療を守る仲間に加わった

**星野** コロナ流行当初、呼吸器科の医師は  
3人でしたので、医師20数人全員がローテ  
ーションを組んで診療に当たりました。  
**堀越** 病院をあげての取り組みですね。  
**星野** 当院は福島県立医科大学病院と人的  
交流を含め、緊密な協力・連携関係ができ  
ています。20年3月に当院で院内感染が発  
生、感染制御学講座の教授（当時）に助言  
を求めました。  
**堀越** どのような支援がありましたか。

※写真撮影時のみマスクを外しています



患者減少、人材不足、物価高騰……  
どう乗り切る？  
アフターコロナの病院運営



能登半島地震の被災地支援に臨む福島総合病院の災害派遣チーム（JMAT・1/30～2/3派遣）を見送る星野院長【写真下中央】



例年11月に福島市で開かれる「東日本女子駅伝」。福島総合病院は毎回救護班を務めている



働きやすい職場づくりのため、職員がお互いに感謝や激励のメッセージを贈る「サンクスカード」。福井県済生会病院の取り組みを参考にしている

堀越 今後どのような病院づくりを目指していきますか。  
星野 地域でトップのケアミックス病院です。私はこれまでに1000例以上の手術

一人ひとりの患者さんに寄り添う  
ワンストップ診療を実践

NHKでも取り上げられ注目されました。私も講師として参加しています。

**堀越** どの病院も若手の常勤医師の確保が重要な課題ですね。  
**赤塚** 福島県北部で研修医の確保と定着に取り組む「福島市臨床研修NOWプロジェクト」に当院も加わり、魅力ある臨床研修を推進するために連携を図っています。  
**堀越** 具体的にはどのような活動を？  
**赤塚** 同プロジェクトに研修医が参加して、症例検討などを行なうものです。

医療機関の機能分化、さらに「済生会」としての役割も果たすことができるケアミックス病院。星野院長がお話していた「面

取材を終えて



が印象的で、患者さんに寄り添う医療とは地域全体で行なうものだと感じました。自分の地域でも病院が担っている役割を改めて考えてみたいと思います。（堀越葵美）

を実施、緩和ケアや在宅医療にも携わるようになりました。手術から看取りまで、外科医として1人の患者さんに寄り添う「ワンストップ診療」の意義を感じていたところ、患者さんと家族から感謝の言葉をいただき「これだ！」とひらめきました。  
**堀越** それケアミックス病院につながったのですか。  
**星野** はい。1人の患者さんが急性期から慢性期まで切れ目なく、転院の必要もなく治療が受けられる「ケアミックス」を期せずして実践してきました。  
**堀越** 福島総合病院の目指す姿が浮びます。星野 当院は内科系・外科系とも専門医が充実しています。私と赤塚先生が専門とする炎症性腸疾患の中でも特にクローン病は、薬物治療の効果がない場合に手術が選択されませんが、それでも治癒しない難病です。若い世代の患者さんが多く、内科と外科が連携することで長期にわたって患者さんの人生を支えていくことができます。

星野 急性期、地域包括ケア、在宅医療のそれぞれのステージで、一人ひとりの患者さんの病状にきめ細かく対応するケアをワンストップで提供することが重要です。そのため、各診療科で完結する発想から組織横断的な発想に切り替える必要があります。地域から求められる済生会ならではのケアミックス型医療機関を目指して業務改善を進めていきます。

星野 教授には未知の感染症の一步先を読む対策を指導していただきました。病棟でクラスターが発生したときは患者全員に検査を実施するなど感染制御の基本を叩き込まれました。  
**堀越** 初期段階から新型コロナウイルスへの対応を身につけていったのですか。  
星野 感染制御の支援で県内各地を回る教授に当院職員が同行するなど、直接の指導もいただきました。  
**堀越** そんな貴重な経験を……。  
星野 このような経過を経て、感染制御体制がレベルアップし、クラスターが発生しても拡大を

抑え込むことができました。  
**経営改善にも医師の育成にも奮闘**  
**堀越** アフターコロナの病院運営は人材不足、物価高騰などで厳しい状況にあります。経営改善のためにどのような取り組みを組んでいますか。  
星野 「収益確保」「費用削減」「業務改善」の三つの側面から、課題ごとに副院長を中心に検討チームを設置しました。  
**堀越** 具体的にはどのような活動を？  
**赤塚** 収益確保ではクリニックや介護施設からの紹介患者を積極的に受け入れる地域医療連携、高齢者総合医療の推進、診療報酬の加算取得および算定漏れの防止を、費用削減では委託・保守費用の削減、医薬材料費等の削減とともに院内物流の効率化を、業務改善ではクリニカルパスの導入推進、看護業務や事務業務の改善と、できることすべてに取り組んでいます。



**赤塚** 目標数値達成に向け、指揮命令→実践→フィードバック→修正を繰り返し、経営改善の好循環が生じるシステムを稼働させています。  
**堀越** なるほど。  
**赤塚** 目標数値達成に向け、指揮命令→実践→フィードバック→修正を繰り返し、経営改善の好循環が生じるシステムを稼働させています。  
**星野** 1年で目標達成とはすごい機動力ですね。医師を育成するという新たな使命を担うことになりましたが、現在の状況はいかがですか。  
**赤塚** 研修医を2人受け入れていますが、2人とも我々が掲げる理念に共感して応募してくれましたが、彼らが特別ということではなく、弱者に支援の手を差し伸べる若い人材が増えていると感じています。済生会で働きたいので入職したという看護師もいます。  
**星野** そうなんです。高齢の患者さんは複数の疾患が併存するケースが多く、一つの病院で総合的に診ることができるケアミックスは当院の強みといえます。  
**堀越** 患者さんの目線で見れば「面倒見のよい病院」ということかもしれませんね。  
星野 当院に求められているのは「強大な病院」ではなく「自分の役割、居場所を見つけた病院」だと思います。生物界の摂理は病院にも当てはまると感じています。  
**堀越** 私も自院の役割を改めて考えてみたいと思います。

星野 「経営改善にマジックはない。計画実行あるのみ」という経営指導委員の助言を肝に銘じています。コロナ補助金による経営改善は大きかったですが、済生会はコロナ診療に全力で取り組みました。地域の信頼に応えた証しだと感じています。  
**堀越** 4月から龍ヶ崎済生会病院と（愛媛）西条病院も基幹型臨床研修病院になり、済生会の臨床研修病院は41施設になりました。どうして研修病院を目指すようになったのですか。  
**赤塚** 生活困窮者の支援、地域医療への貢献、医療と福祉の総合サービスの提供という済生会の理念を体現する医師を、福島県で育成したいという強い思いがあったからです。臨床研修病院になるため一昨年4月に臨床研修準備室を設置、昨年3月に指定を受けました。



# スマートベッドシステム 導入で

## 新たな働き方をつくる



写真上のモニターで氏名や移動介助、食事などの情報を確認することができる

### 見守り方改革で 目指せDX化

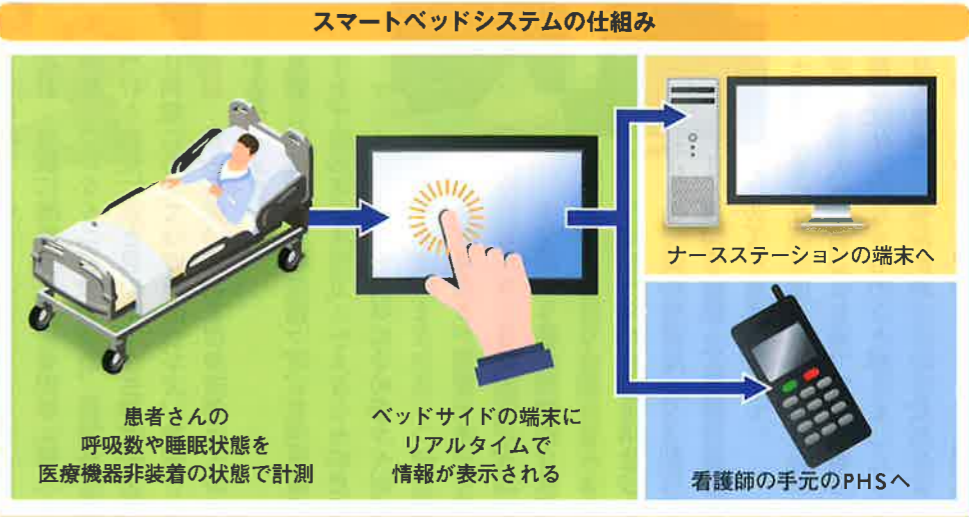
〈東京〉 向島病院

## 患者さん職員双方のストレスを軽減

多いときには入院患者の7割が75歳以上の後期高齢者となる向島病院。認知症の患者さんやせん妄のリスクのある患者さん、また退院間近の患者さんの急な状態変化から死に至る事例の報告もあり、より正確な見守りが求められていました。これまではマットタイプや装着タイプのもので、患者さんの動きに反応するセンサー機器を導入。しかし数に限りがあるため、時に対象と思われる患者さんに行き渡らないことも。常時見守りが必要となる事例により、職員の負担感もさることながら、患者さんの尊厳が損なわれていることを問題視していました。

そこで佐久間あゆみ看護部長が「患者さんにも職員にも、ストレスの少ない見守り方はないの

か……」と考えたどり着いたのが、スマートベッドシステム。脈拍や体温といった患者さんのバイタルサイン、睡眠時の状態をリアルタイムに共有できる機能を持つています。このシステムは、2016年に医療介護現場での人員不足の解消を目指して開発されました。2021年時点での導入事例は全国でわずか20施設ほど。しかし当時、同院ではベッドの買い替え時期が迫っていることもあり、「患者さんの状態が可視化されることで、見守りにおける悩みだけでなく、これまで抱えていた課題が一つに解決できるのではないか」という思いで導入を検討し始めました。



済生記者の加藤建志さんがスマートベッドシステムを体験

# 済生会 交差点

## SAISEIKAI・JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。



看護師は各病室のスマートベッドシステムと連動したモニターを参考に、患者さんの状態を検討



モニターの拡大画面。各患者さんの心拍数や呼吸数、睡眠状態などが分かりやすく表示される



体温計や酸素飽和度測定器は、通信が可能な専用機器を使用

まずは、病院としての導入の可否についての検討が必要でした。経

### 試行錯誤でステップアップ



営会議では、価格や機能、他メーカーとの差など、「本当にこのシステムでなければならぬのか」、や「本当に必要なのか」との意見も。そういった声



〈左〉佐久間あゆみ看護部長 〈右〉看護部の主任以上が参加する、月1回の合同会議。スマートベッドシステムの課題などの話し合いも行なわれる

を受けて、見守りに対する現況を数値で示すだけでなく、この状況が引き起こす職員の負担の大きさや患者さんの行動について、繰り返し説明を続けました。その反面、「看護師さんの見守りの大変さが軽減されるなら導入すべきなのではないか」といった声に救われた場面もあったと、当時は振り返ります。

その間、佐久間看護部長を支えていたのが、笠松英朗事務長（現中央病院・広報室室員）。「次回までにこのデータを用意しよう」「次で決めるよ」と励ましを得ながら、共に必要性をプッシュし続けた結果、全床への導入が決定しました。

その後、各病棟から選出された看護師と多職種によるプロジェクトチームを発足。21年12月に、キックオフミーティングを実施しました。そこから半年間、システムの中身が決まるまでは毎週、その後は隔週で会議が行なわれ、翌22年5月16日、めでたく102床のスマートベッドシステムの運用を開始しました。全床への導入は全国でも珍しく、「当院の規模だからこそなかったことなのかもしれない」と佐久間看護部長は話します。



## コロナ禍に 負けない

〈大阪〉  
中津病院  
呼吸器内科副部長  
東 正徳

ところが、「これで見守りへの負担軽減！」と意気込んだのもつかの間、スマートベッドシステム開始当時は、ナーズコール祭り。従来の機器では不足していたセンサーの機能を、必要と考える患者さん全てに活用した結果、看護師のPHSが立て続けに鳴り、しばらくはそのコールの多さに振り回されていました。この課題解決のため、看護師長を中心に「どのような設定をすれば望ましいコールが

鳴るのか」を検討。トライ＆エラーを繰り返しながら、最適な活用方法を探っています。

### 仕事を見直し 次のスタートラインへ

スマートベッドシステムを導入したことにより、見守りを理由にした患者さんへの行動制限や、見守りに関する職員の負担は軽減されました。また、ベッドに内装された「眠りSCAN」(呼吸数と脈拍数をおよそ1分

後ごとに表示)の機能により、患者さんの心肺停止に即座に対応できた事例も。さらに、患者さんの睡眠と活動の状態はデータとして記録されるため、退院後の在宅ケアでの支援にも活用できるようになりました。

導入から2年。「スマートベッドシステムの導入は、業務の一部がIT化されたに過ぎません。職員や患者さんがシステムに馴染み、課題が見えてきた今からが本当のスタートだと思

っています」と佐久間看護部長。DX化という次のステップを目指すためには、当院で働く人々が仕事の仕方を変えなければなりません。今回のシステム導入を、仕事を見直すきっかけと捉え、看護師の人員不足に対する課題解決と、安全な見守りシステムの構築につなげていきたい——と、意気込みを伺うことができました。

(メディアカル・リーフ  
■ 實谷咲希)

## 新型コロナ専用のNPPV導入で 学会「医療の質特別賞」受賞

コロナ  
陽性の  
場合に

当院は大阪市北部の二次救急医療機関として、年間約5000台の救急車を受け入れています。コロナ禍では患者発生直後の2020年2月から大阪府内のCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)患者を受け入れており、人工呼吸管理が必要な重症患者の受け入れも行ってきました。

救急外来では呼吸不全や心不全の患者も多く搬送されますが、

症状や検査所見が新型コロナと類似していることがあるため、鑑別が必要となっています。気管切開や気管内挿管をせずに陽圧のかかるマスクを装着することで呼吸の補助を行なうNPPV(非侵襲的陽圧換気)は、呼吸不全や心不全の患者などに工的に呼吸補助が必要な患者に使用します。しかし、NPPVではマスクの排気口からそのまま患者の呼吸が放出され、新型

ウイルスの飛散・周囲の曝露リスクがあることから、新型コロナ流行当初は新型コロナ除外(新型コロナウイルス検査実施による陰性確認)前でのNPPVの使用は推奨されていませんでした。

治療を  
遅らせないために

当院では、呼吸不全や心不全により救急外来で直ちにNPPV導入を必要とするケースが多

くみられます。新型コロナウイルスの検査結果が出る前に、治療介入を遅らせずにNPPV導入を行なう



通常のNPPV 新型コロナ専用NPPV 新型コロナ専用NPPV装着時  
通常のNPPVマスクは呼吸の排気口があるが、新型コロナ専用NPPVマスクはフィルター下部に呼吸の排気口がある

ためには、患者が新型コロナを合併していても使用できるNPPVが求められます。そこで、20年8月、呼吸ケアサポートチーム(RST)が中

心となり、新型コロナ専用のNPPVを導入する検討を開始しました。

当院RSTは、呼吸器内科医師、看護師(集中ケア認定看護師・皮膚排泄ケア認定看護師)、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士の6職種、12人のメンバーで構成。ここまでの多職種でのRSTは全国的にも珍しいのですが、それぞれの専門的視点から意見を出し合い、機器の作成・試用、手配を行なうとともに導入手順の検討、マニュアル作成、スタッフ教育を進めていきました。



RSTでは人工呼吸管理が必要な患者を対象に、定期的カンファレンスと回診を実施。また、スタッフからの呼吸器関連の相談にも随時対応する



「医療の質特別賞」受賞は、当院RSTの各専門職がそれぞれの経験や知識を持ち寄り、コロナ禍を乗り越えてきた「チーム力」があったからこそ

新型コロナ専用NPPVは、マスクから呼吸が放出されない閉鎖マスクを使用し、人工鼻フィルターを経由して呼吸ポートから呼吸を排気させることで環境へのウイルス飛散を予防しま

す。使用場所は陰圧個室に限定することにしました。また、当初は新型コロナに対するスタッフの不安が強かったため、RSTメンバーで適宜説明会を実施し、導入時のサポートを繰り返し行ないました。

20年10月、まずは新型コロナ除外前の救急症例に対して新型コロナ専用NPPVを導入。その後、新型コロナ陽性症例にも導入を開始しました。20年10月〜23年3月に176例(うち新

型コロナ陽性15例)に使用しましたが、職員等の感染は1例もありませんでした。

受賞はコロナ禍での  
チーム医療の成果

昨年12月、仙台市で開催された第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会で、RSTメンバーの藪野雄紀臨床工学技士が「当院におけるCOVID-19流行期のNPPV導入の経験」を発表し、医療



# ひたむきな努力で 一般就労を実現 支援をされる側から する側に

## 利用者の 職員採用

〈大阪〉  
りんくうワークス  
施設長  
岩本 剛

の質特別賞を受賞しました。  
この賞は、医療の質の向上に  
寄与する優れた発表をした者に  
与えられ、毎年四つの領域から  
一演題ずつ選定されます。今回  
は「酸素療法・呼吸管理領域」  
での優れた演題として選定。ウ  
イルス飛散を予防した新型コロ  
ナ専用NPPV機器の導入はま  
だ一般的ではなく、新型コロナ  
除外前から専用NPPVを  
導入したことで、治療介入  
の遅れを防ぐことができた  
点が評価されたものです。

コロナ禍ではこれまでのエビ  
デンスや知識が通用せず、全ス  
タッフが総力戦で取り組む必要  
がありました。当院RSTでは、  
多職種それぞれの専門的な立場  
から検討を行ない、経験や知識  
を持ち寄って議論し、課題に対  
処してきました。新型コロナ専  
用NPPV導入についても「コ  
ロナ禍でのチーム医療」の成  
果が、今回の受賞につながった  
といえます。この経験を今後の  
RSTのチーム活動にも生かし  
て参ります。



筆者(左)と、利用者から職員に採用された末鶴さん

当施設は就労継続支援A型  
・B型のサービスを提供する

多機能型事業所です。定員はA  
型が40人(現在の利用者は35  
人)、B型が10人(現在の  
の利用者は8人)。主  
な利用者は軽度〜中  
度の知的障害の方です  
が、精神障害や発達障  
害の方も2割ほど利用  
しています。

令和5年4月、工賃  
月額が全国平均値を上  
回っていること、前年  
度に一般就労者を出し  
ていることから、令和  
4年度就労継続支援B  
型優良取組表彰の受賞

### 利用者から初の職員採用

広汎性発達精神障害で障害等  
級2級の末鶴麗姫さんは、当施

設の就労継続支援A型を令和3  
年4月から利用し、昨年4月に  
非常勤職員として採用されまし  
た。A型利用者からの職員採用



A型利用者として勤務時の主な業務内容は、クリーニング業務での病院で扱うユニホーム類や布団類の畳み作業。非常勤職員になってからは、染み抜き作業にも挑戦中。利用者へのアドバイスも少しずつできるよう

事業所に選ばれました。  
工賃向上への取り組みや就労  
支援においては、真摯に仕事



末鶴さんが受講した大阪府障がい者ピアサポート研修「基礎研修」「専門研修」の修了証書

ができる環境づくりの上で、  
途切れることなく作業を提  
供し続けることが大切です。  
仕事そのものが利用者の能  
力を高め、成長していくと  
いう考えのもと、サポート  
体制を整えてきました。  
また、「頑張れば非常勤  
職員として採用してもらえ  
る」という利用者のモチベ  
ーション向上、「新入職員  
の見本として頑張らなけれ  
ばならない」という職員意  
識向上のため、利用者からの職  
員への採用を促進したいと考  
えています。

は、当施設では初めてのことで  
す。

採用に至った理由は2点。本  
人が福祉的就労ではなく一般就  
労を希望していたこと、そして  
仕事に対する末鶴さんの姿勢が  
素晴らしかったことです。受け  
持った作業には真面目に取り組  
み、さらに業務に対して自ら工  
夫・改善することができていま  
した。

採用にあたっては「報告・連  
絡・相談をすること」「気持ち  
を安定させ、自分の気持ちを正  
しく表現すること」をお願いし  
ました。末鶴さんは対人緊張が  
高く、初対面や慣れない人に対  
しては特にこの傾向が強く現れ  
ます。意見を求められた際にと  
つさに言葉が出ないといった課  
題もありますが、前もって説明  
をし、話す内容をいつまでにま  
とめておくように伝えると、十  
分に答えてくれます。

### 一人暮らしに向けて ステップアップ

非常勤職員として勤めて半年  
以上が経ち、末鶴さんは「A型  
利用者から非常勤職員になった  
ことで、業務上の大きな違いは  
ありませんが、支援される側か

ら支援する側になり、責任の重  
さを感じるようになりました」  
と振り返ります。  
A型利用者時との区別を図る  
ために週2回、病院内のユニホ  
ーム納品業務に取り組みでもら  
いました。声が小さいなどコミ  
ュニケーション上の課題で継続  
できなかったこともありましたが、  
工場内での作業は十分に果  
たしてくれています。  
また当施設職員として、大阪  
府障がい者ピアサポート研修  
「基礎研修」「専門研修」を修了。  
だんだんと利用者へのアドバイ  
スもできるようになりました。  
この調子で徐々に自信をつけて  
いくことで、課題も乗り越えて  
いけると思います。  
次のステップとして、末鶴さ  
んは現在「一人暮らし」を目標  
にしているそうです。  
「一人暮らしをするために必要  
なことは、自分の力で働いて収  
入を得ることができ、仕事とプ  
ライベートを両立することだと  
思います」と末鶴さん。「ピア  
サポート研修で学んだことも生  
かし、もっと利用者として接するこ  
とができるように努力したい」と  
今後の抱負を力強く語りまし  
た。

**NIP-V 閉鎖式マスク**  
コロナ騒いで使用する場合のマスクはマスクからLeakせず、呼吸ポートからLeakがでる。  
呼吸ポートをかみ合わせず外さない、漏れない！！  
加湿器の併用は禁止！！

**呼吸ポート**  
ここからLeakがでるために、漏れを防ぐことが重要です！！

スタッフ向けのマニュアルは適宜改定して運用。使い方を“見える化”した資料も作成した



# 令和5年度 済生会生活困窮者支援事業優良事業

支部・施設が行なう生活困窮者支援事業のうち、先駆的な取り組みや継続して行なわれ優れた実績をあげている事業に要する費用の一部または全額を補助し、支援事業の更なる推進を目的とする。

支部・施設名	事業名	交付額 (単位：円)
1 北海道支部	食料・医療支援 (フードバンク事業)	2,500,000
	合計額	2,500,000

## 食料を必要とする人と支援する人を つなげるフードバンク

北海道済生会 ソーシャルインクルージョン推進室 室長 清水雅成

社会福祉制度で解決できない「困りごと」の代表的なものに「食事ができない」ことがあげられます。そこで、北海道済生会は2021年にフードバンク事業をスタート、ウエルネスタウン事業の柱の一つとして開



バーコードリーダーで在庫を管理。令和5年度生活困窮者支援事業優良事業補助金を活用して関係機器を購入した。

始まりました。当初は職員から提供された食品を近くの教会に届けたり、必要とする方に直接手渡していただきました。フードバンク事業が浸透していくにつれて、地域の企業からも「社会貢献活動」として食料を提供

してもらえようになりました。さらに北海道済生会は北海道フードバンクネットワークに加盟し、まとまった量の食料を確保できるように。最近では地域に活動を知ってもらうため、保育園ネットワ

ークの会や社会福祉団体の会合等でもプレゼンテーション、地域から食料を集める「フードドライブ活動」を開始しました。また、食料を必要とする方へのアプローチにも取り組んでいます。小樽市へ協力依頼をし、障害や介護の相談事業所の会合や、地域包括支援センター管理者会議等でフードバンクの重要性を説明、食料を必要とする相談者へいち早くアプローチすることができるようになりました。



済生会ビレッジに設置している「フードバンク自販機」。専用コインを使って無償で食料を入手できる。食料はビレッジ併設のキッチン「ぶりもくっくろム」で調理する。

2023年度は延べ1263人に食料支援を実施。2024年度は①フードバンク自販機の運用確立②バーコードを活用した在庫管理の簡略化を進めています。食料を必要とする方と支援をしたい方それぞれをつなぐフードバンク事業は、済生会が地域でなくてはならない存在だと認識してもらおうことができ、この先のソーシャルインクルージョン推進活動の大きな財産となっています。



当初は地元市場やパン屋などから提供された食料の「支援の輪」。現在はコカ・コーラや文明堂、イオン北海道などにも広がっている。

## 令和6年能登半島地震 災害支援

### 〈鹿児島〉 川内病院

### 患者さんも看護師も被災者 心と体の支援の難しさを実感

助産師 白木結子

1月27日〜2月1日、筆者と小

林香織看護師の2人が市立輪島病院で支援活動を行いました。同院は輪島市中核病院として、断水が継続する中でも外来診療を再開。筆者らは

発熱外来・救急外来での業務に従事しました。発熱外来では新型コロナウイルス陽性患者を多数見受けましたが、多くは軽症のため、避難所での経過観察となります。感染症の蔓延防止が課題であることを実感しました。



筆者

小林看護師

被災地での看護師の離職が問題となつていますが、被災し避難生活をしながらの不規則な勤務は負担も大きく、働きたくても働けない実情があります。そう

### 〈鳥取〉 境港 総合病院

### 「自分はどこに帰るの だろうか」被災者の 不安な気持ちに向き合う

済生会記者 亀尾美子

本部からの職員支援要請に対して、当院では松本由希看護師がすぐに手を挙げ、2月29日〜3月14日、金沢病院で支援活動に当たりました。

同院では内科・コロナ病床・CCU病棟で入院患者さんの身体清拭、入浴・シャワー、体位



した心の声を聞くことができ、究極の選択を迫られている現実を知りました。被災した患者さんだけでなく、看護師に対しても、自分の言動が相手を傷つけていないか、声をかけるべきか悩む機会の多い4日間でしたが、心と体の支援の実際とその難しさを経験し、今後の災害看護のあり方を考えるよい機会となりました。

交換、おむつ交換、点滴、コール対応などを行いました。ある日、被災した患者さんが「自分はどこに帰るのだろうか」と不安を口にしたことがありました。発災から時間が経ち、当





支援に行った看護師が病院に再接する  
1.5次避難所も視察

## 岡山済生会 総合病院

### 被災者の様子を観察しながら対応

済生記者 高畑貴子

済生会の災害対策本部からの派遣要請を受け、1月26日～2月9日、当院の松本聖子看護師が金沢病院の透析病棟で災害支援活動に従事しました。

現地では透析の準備から終了までを、患者さんの様子を観察しながら対応。

被災者の中には、被害が特に大きかった輪島市から避難して透析をしている人も。さまざまな事情を抱えながら、そのつらさを表に出さない人も多く、スタッフが患者さんの状況を把握するのが難しい面もあったようです。

また松本看護師の派遣期間中に、秋篠宮皇嗣殿下や済生会本部とのオンライン会議が行なわれ、現地での活動の報告や感想



秋篠宮皇嗣殿下や済生会本部とのオンライン会議 派遣当日、院長らと、右から2人目が松本さん

などを伝える機会がありました。今回の派遣を通して、松本看

## 長崎病院

### 患者さん・スタッフに温かく迎えられ 情報が少ない中で支援に奮闘

透析センター 岩井由紀子

時のことやこれからの不安な気持ちや話を患者さんが増えてきています。そうしたときは業務の手を止め、傾聴して思いを受け止めるように心がけました。

自身も被災しながら、患者さんを懸命に支える同院職員の皆

さんの強さを目の当たりにした松本看護師。活動を終えて、「自分がつらい状態であっても、患者さん一人ひとりに優しく対応できるように仕事に向き合いたい」と改めて感じた」と思いを語りました。



松本看護師(左)



右が筆者



3月6～22日、筆者は金沢病院透析室で支援看護師として業務を行ないました。

長崎からの移動は1日かかり。配属された透析室では同院スタッフが少ない中で、少し心配気味の私に丁寧なオリエンテーションをしてくださいました。使用する医療

機器も当院と同じものが多く安心できましたが、業務の流れが違うために戸惑うこともありました。

これまでの背景や状況が分からない中で被災者受け入れは、患者さんもさることながらスタッフへの業務面・精神面の負担

が大きいと感じました。突然応援に来た看護師を患者

さん・スタッフ共に温かく迎えてくださり、透析室業務を無事

に行なうことができました。復興は長期戦になると思われま

す。が、少しでも早い生活安定を願うばかりです。

看護師は「自分がいかに周囲に支えられていたかということを再認識しました。金沢病院の患者

さんとスタッフが、望む方向に進んでいけることを願っています」と語りました。

### 応援ナースとして金沢病院へ 日頃から災害に備えることが大切

済生記者 高畑貴子

松本聖子看護師の透析病棟での災害支援活動に続き(上段記事)、当院の福田夕湖看護師が3月7～21日、金沢病院で応援ナースとして活動しました。

主な業務は清潔ケア、点滴の準備・交換、患者さんの観察や処置など。夜勤業務では、おむつ交換や採血、血糖測定、食事介助などを行ないました。

同院ではリエゾンナース(精神看護専門看護師)が紹介し、スタッフの精神的フォローを実施。少しでも負担を軽減するよう働きかけをしてきたとのこと

です。

福田看護師は

「災害はいつ起こるのか予測不能。災害訓練を行なっている、実際にその通りに活動できるとは限らない」と語ります。「災害による被害状況も異なる。いろいろなパターンを想定した災害訓練を定期的に行ない、継続して参加することが必要」と備えることの大切さを訴えました。







## 満開の桜の下で恒例の花見会 地域との交流機会に

### 大分県地域生活定着支援センター

ひらひらと舞う花びらの中、花見会を4月5日に開催しました。今年で8回目の開催で、場所は定番の桜の名所、大分市平和市民公園。刑務所を出所するなどして、地域で暮らす独り住まいの高齢対象者さん5人を招待しました。

天候に恵まれ、皆で辺りを散策したり、談笑したり。もちろんお楽しみのお弁当タイムも。さらに全員でトランプ大会を楽しみました。



## 更生保護施設入所者対象に勉強会 感染対策など情報提供



### 和歌山病院

当院のなでしこプラン事業として、1月16日、「更生保護施設入所者に対する勉強会」を更生保護施設端正会で開催しました。

コロナ禍で中止していたため開催は4年ぶり、当日は仕事終わりにもかかわらず15人が参加。当院の感染管理認定看護師の佐藤慎

## 加古川刑務所で介護福祉士 実務者研修 9人が資格取得

〈兵庫〉特養ふじの里

国の受刑者への就労支援の一環で、刑務所内での介護福祉士実務者研修が平成29年度から行なわれています。

当施設は、平成30年度に介護福祉士実務者研修養成施設の指定を受け、令和2年度からは加古川刑務所内での同研修の実施を担当しています。

令和5年度は9月～翌年3月

悟副所長が「むずかしくない！ 日常の感染対策」と題し、コロナウイルス・インフルエンザウイルス・ノロウイルスの特徴や予防について講演しました。

手洗いの実演の際には自ら拳

手洗いの実演の際には自ら拳し参加する人も。また、換気に関する質問も出るなど、終始和やかな雰囲気でした。今後は感染対策だけでなく、食事のことなどについても教えてもらいたいとの要望がありました。

(済生記者 松元靖寿)

に実施し、9人が受講。テキストを用いた通信学習に加え、ス



クリーニングでは当施設の職員が刑務所に赴き講義を行ないました。受講者は皆、真剣な表情で資格取得に臨んでいました。

3月25日には修了式が行なわれ、受講者全員に修了証が渡されました。

加古川刑務所での研修はこれまで計4回実施されており、延べ27人が資格取得しています。

(介護部長心得 柳川瀬洋志)



### 山形済生病院

## 更生保護施設で救命対応・ AED講習

当院のなでしこプランとして、3月8日、更生保護施設「羽陽和光会」の入所者・施設職員を対象に救命対応とAEDの使い方についての講習を実施しました。

当日は当院から集中ケア認定看護師の水田麻美さんのほかMSW3人が訪問し、入所者7人と施設職員4人の計11人が受講。水田さんの説明のもと、実際に胸骨圧迫やAEDの使用を体験してもらいました。入所者さ

また、対象者さんそれぞれにカメラを渡し、桜や鯉のぼりなどの風景を、思い思いに撮ってもらいました。写真はアルバムにして、後日対象者さんにお届けする予定です。

対象者さんからは「いろいろな人と話せてうれしい」「皆で食べるご飯はおいしい」「アルバムが楽しみ」などの声がありました。

(相談員 大石 陽)

んは慣れない胸骨圧迫の動作で疲労を感じている様子でしたが、周囲の人たちと協力しながら受講していました。

体験後は、実際に街で倒れて



救命対応の説明をする水田さん

いる人を見つけた場合の対応について質問がありました。また、受講者は男性のみだったため、女性が倒れていた際の配慮についても伝えました。

次回講座については「運動」や「生活習慣病」といったテーマの希望もあるため、要望に合わせて企画していきます。

(医療福祉相談室 工藤綾女)





## えひめSDGsアワード・優秀賞受賞

〈愛媛〉松山病院



3月25日、「えひめSDGsアワード2023」の表彰式が愛媛県庁で執り行なわれ、当院が優秀賞を受賞しました。

「えひめSDGsアワード2023」とは愛媛県SDGs推進企業の中から優れ

た取り組みを行なう企業等を選定するもので、当院は「無料低額診療事業」と「離島診療」の二つの取り組みで表彰をいただきました。

どちらも済生会を代表するソーシャルインクルージョン事業であり、普段から済生丸巡回診療事業に携わっている筆者としてもこのような評価をいただ

たことをとてもうれしく思いました。

今年度の済生会学会は「人材確保・人財育成でSDGs」をテーマに掲げ、愛媛県松山市で開催されます。当院では今後もSDGsをより一層推進していきます。

(健診センター兼経営企画室 齊藤一馬)

### 〈山口〉下関市豊浦地域ケアセンター

## 「人生100年」をテーマに初の福祉フェスタ

3月24日、当センター併設の老健ひびき苑で「ひびき苑福祉フェスタ」を初開催しました。本イベントは地域貢献活動の一環で、「人生100年」をテーマに掲げ、地域の皆さんに対し「介護予防に努めて人生100

年時代を歩んでいきましよう」との思いを込めて企画。

当日は、阪田健介所長の講演、〇×クイズ、リハビリ体操の三つのプログラムを実施。また、認知症・介護保険相談などのブースを設置し、さらに寛ぎの場としてカフェを開店しました。28人が来苑し、「楽しかったよ」との声を多数いただきました。また、アンケートの自由記述欄には「高齢者の憩いの場の提供を考えていただきたい」「地域に寄り添



った活動を期待している」といった意見も寄せられました。

(地域貢献活動企画委員会 柴田浩之)

## 身寄りがなくても、安心して地域で暮らせるように

鹿児島地域包括ケアセンター



身寄りのない独居高齢者の増加や看取り難民等の課題がある中、必要な終活支援の仕組みづくりを目的としたシンポジウムを3月17日、鹿児島県青少年会館で開催しました。

当日は、医療関係者や地域福祉に関わる専門家、社会福祉施設事業所等の職員46人が参加。吉田紀子センター長の主催者挨拶

と、揚松龍治鹿児島県支部長の挨拶で始まりました。

NPO法人「つながる鹿児島」理事長・柴田淳氏の基調講演では、身寄りがなくても安心して暮らせる地域社会づくりについて、具体的なアプローチが提案されました。

パネルディスカッションでは、身寄りに関する問題に取り組む

## ショッピングセンター内に保健室

兵庫県病院

具体的な事例や、行政の取り組みなどが紹介されました。

最後に、「当事者の方々の意見をよく聞いて、課題に向き合

い皆でできることから実践していこう」と久保園高明副センター長が挨拶して結びとなりました。(済生記者 大迫良代美)



神戸市北区にあるショッピングセンター「エコー・リラ」内に、当院と関係機関が連携して運用する「リラの保健室」が開設されることとなりました。4月1日、連携協定調印式に山本隆久支部長が出席し、連携協定を締結しました。

「リラの保健室」では、病院に通うほどではない健康に関する心配事や不安、疑問を専門家に気軽に相談でき、健康管理のために身長・体重・血圧測定などを自由に利用でき

調印式当日は、早速当院の看護師2人が健康相談会を実施しました。

(済生記者 吉井梨恵)



## 女性のための出張相談会

### “まるごと”相談できる場が必要



宇都宮市つながりサポート女性支援事業（つなサポ）として、3月2日、女性のための出張相談会を宇都宮市保健センターで開催しました。同日に市の女性の健康イベントが開催されており、当事業もブース出展の形で参加しました。

当日は、宇都宮病院の稲見一

（地域連携課）秋山綾香



育児や子どもの将来への不安、物価高騰が進む中で経済的不安を訴える方が多く、「まるごと相談できる場が必要」「気軽に話を聞いてくれる窓口がある」とよい「子どもがいても働きやすい環境がある」とよいといった意見がありました。

当事業は今年度から運営が宇都宮市へ移行しますが、女性の福祉の増進・自立に向けた当院独自の活動を今後も続けていきます。

（地域連携課）秋山綾香

## フードバンクへ食料品寄贈 食品配布（兼）相談会で声をきく

〈栃木〉宇都宮病院

世界的な物価上昇や電気料金値上げなどにより多くの世帯で生活が苦しくなっており、フードバンクの需要が急速に高まっています。

当院からは2月27日、賞味期限が近くなった非常食ライスクッキーやアルファ米など約300食分の非常災害用食料品をフードバンクうつのみやへ寄付しました。また、当院職員にも寄付を募ったところ、短期間でたくさんのお食料品が集まり、3月13日にこれらも寄付しました。

3月16日には市内のフードバンクうつのみやや泉が丘支所で食品配布（兼）相談会を同法人と共催。当日は稲見一美地域連携課長をはじめ当院MSW3人が相談員として参加しました。

訪れた70人の中には外国人もおり「母子家庭で本当に生活が苦しい」「再就職先がなかなか決まらず、貯金を切り崩しながらの生活で余裕が全くない」などと苦しい胸の内を話す方が多くいました。

（地域連携課）秋山綾香



医療福祉センター全体で行ないました。

年2回、職員食堂に回収用の箱を置いて匿名で寄付できるようにしています。今回もインスタント食品、飲料、衣類、タオル、石鹸やシャンプー、マスクなど多数の寄付がありました。前回から、未使用に近い部屋着であれば古着も可に。救急外来を受診した人の着替えとして、また一部は入院・通院患者さんの緊急時に提供しています。

本事業はコミュニケーションソーシャルワーカー同士の交流や情報共有の場にもなっており、物の受け渡しにとどまらない貴重な機会として今後も続けていきます。

（福祉医療支援課）MSW 中村悠子



〈大阪〉吹田病院

## 年2回の地域セーフティネット事業 交流や情報共有の場にも

当院ではなでしこプランの環境で、未使用のタオル・バスケットや食品・生活用品の寄付を募り社会福祉協議会等を通じて必要な人へ提供する独自の地域セーフティネット事業を実施しています。2023年度2回目の寄付募集を、2〜3月に吹田

〈栃木〉宇都宮病院・宇都宮乳児院

## つなサポ連携会議に39機関 事業は市の直営へ移行

美地域連携課長をはじめとしたMSW4人が相談対応。つなサポのブースには、10〜70代の幅広い年齢層の77人が立ち寄りま

3月14日、宇都宮市つながりサポート女性支援事業（つなサポ）の協力団体を集めた連携会議を当院みやのわホールで開催しました。

つなサポ相談室ではさまざまな機関と連携し、市内83カ所の相談窓口を設置。相談窓口以外での関係協力団体も含めると合計97カ所の連携機関があります。

当日は39機関・47人が参加。はじめに、地域連携課の稲見一美課長（MSW）が当事業の昨年度実績報告と3年間の振り返りを行ないました。

次いで、宇都宮市





Text: みやじまなおみ  
Photos: 安友康博

ちょうかう・ももか 東京都生まれ。25歳のとき春風亭小朝に入門。07年に前座となり、前座名は「ぼっぼ」。11年11月に二ツ目昇進、「びっかり☆」と改名。22年3月、真打昇進。「蝶花楼桃花」と改め、七代目・蝶花楼馬楽の没後途絶えていた歴史ある亭号を復活させる。翌年、女性芸人だけの寄席興行「桃組」を成功させ、注目を集める。また、女優、ラジオパーソナリティ、エッセイの執筆やニュース番組のコメンテーターなど、多方面に活躍の場を広げている。



7月1日(月)～31日(水)、池袋演芸場で31日間の連続独演会を開催。  
8月には恒例の全国公演「蝶花楼桃花 夏の独演会」を開催予定。  
●8月12日(祝) 東京・なかのZERO  
●8月17日(土) 名古屋・今池ガスホール  
●8月18日(日) 大阪・PARCO SPACE 14  
詳細は公式サイト「桃花倶楽部」<https://momoka.club/>へ。

## ”心が軽くなる落語“ 届けたい

### 共感を笑いに変える女性真打

25歳で春風亭小朝さんに弟子入りし、15年もの修業を経て10人目の女性真打となった蝶花楼桃花さん。しかし、落語はそこからが厳しい世界なのだそう。「落語界は逆ピラミッドで、真打の数が一番多い。しかもそんな人気・実力を兼ね備えた師匠方に混じって、寄席の出番をい

ただいまいかないといけません。また、その日のお客さんに合わせてネタを決めるので、場の空気の読み方、判断力も必要です」そうはいっても、失敗はある。「すべりまくって、このネタじやなかったり！」と後悔することもありますが、<sup>はな</sup>「断の筋を忘れて頭が真っ白になり、お客様に

「このあと、主人公はどうするんでしたっけ？」と聞いたことでもあります(笑)」。そんな自分の失敗も含めて、日常で見聞きするすべてのことが高座のネタになるのが落語の面白さだと言う。地方へ行けば、純喫茶を話しごし、地元ネタを集めて笑い話にするのが密かな楽しみだとか。

「それを笑ってもらい、少しでも心を軽くしてもらおうのも私の仕事。私がズッコケる姿を見て、『これ以上クヨクヨ悩んでも仕方ない!』なんて思ってもらえたら、救いになるじゃないですか。おばあちゃんになっても、そんなふうにお客様に共感していただける噺家(はな)でいたいですね」

# 桃花

MOMOKA  
Choukarou

# 蝶花楼

史上初、女性芸人だけの寄席を成功させ、国民的人気番組の大喜利コーナーに女性として初出演するなど、勢いが止まらない。もともとは男性社会だった落語界で、うまい、かわいい、華がある、三拍子そろった「寄席のプリンセス」と呼ばれる落語家の蝶花楼桃花さん。落語の厳しさや魅力、理想の姿について、お話をうかがいました。

この人

Vol. 168



# 口福につぼん

吉井省一



済生会の〔病院・施設〕がある  
県内の市町村

よいし・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

皆さんが一番好きなフルーツは何ですか。私は何と言ってもメロン。あの甘みが滴り落ちるジューシーな味わいは何物にも代えられません。

このメロンの生産量日本一を誇るのが茨城県。しかも24年連続。5〜6月の最も旬な時季を茨城県では「ハッピー・メロン・シーズン」と呼んでいるそうです。ああ、初夏だけでも茨城で暮らしたい。

今回ご紹介するのは、銚田の地で6世代にわたり農業を営み、農林水産祭・内閣総理大臣賞、日本農業賞大賞の栄誉に輝く深作農園が作ったバウムクーヘン。何とメロン1個分のビュレを使った、贅沢な逸品なのです。

果物のプロだからこそ  
できた究極のスイーツ

そもそも農家の方が畑違いの（シヤレではなく）バウムクーヘン作りに取り組んだきっかけは、農園のスタッフたちが農作業の休憩時間にバウムクーヘン



みずみずしいメロンの栽培で定評がある「深作農園」。店のメニューには華やかでメロンの魅力たっぷりのスペシャルパフェもある

## 80 メロンバウム プレミアム

《深作農園》

茨城県  
銚田市

サク」が誕生したのです。この「メロンバウムプレミアム」は、メロンは言うに及ばず、卵やバター、小麦粉などこだわりの抜いた食材を使っているのが

特徴のひとつ。たとえば、お菓子作りでの卵の重要性を考えて選び抜いたのが、赤玉鶏の王者と称されるポリスブラウンの卵。これら食材の良さを余すところなく引き出し、15層にわたって重ねていく菓子職人の技術が見事に生かされています。

こうした奮闘努力の結果、権威あるDLG（ドイツ農業振興協会）食品競技会などで金賞を受賞するなど、世界的にも評価されるスイーツになりました。

Farmkuchen Fukasaku



農園で育てたフルーツが美味しいスイーツに。農園主夫妻（前列中央）の夢が大きく花開く

ちなみに、店舗は手作業で丁寧に作っている様子が見えるオープンキッチンタイプです。

15層のバウムが重なる  
旨みたっぷり味の年輪

いよいよ、高級感ある紙箱を開けて、メロンを模したメロンバウムとご対面。「メロンチョコ」でコーティングされた別添えのつるを取り付ければ「メロンバウムプレミアム」の完成。ああ、スイーツ好きを魅了すお菓子の国に迷い込んだよ

つる部分は取れやすいため、別添えになっている。お菓子の国と果物の国の王様気分が一度に味わえる



うなメルヘンチックなフォルム。一人分をカットし眺めてみると、「15層のメロンバウムクーヘン

がよくわかる瞬間です。まったりした食感のようか部分には、メロンの爽やかな香

ン」の周りを「メロンパイ生地」が優しく包み、芯の部分には「メロンようかん」がぎゅっしり。それでは、さっそくフオークを入れてみましょう。サクッと香ばしいパイ生地の食感の後に、一層一層が美味しさの年輪にも例えられるバウムクーヘンのしっとりきめ細やかな甘さが広がります。使っている卵の上質さがよくわかる瞬間です。



期間限定で、茨城県産栗を使ったほっこり甘い「栗バウムプレミアム」も見逃さない一品

りと風味がギュッと凝縮されていて、充足感が半端ないです。つるはパイとメロンチョコが絶妙なバランスで、歯応えもよく、これはこれで手軽に持ち歩けるお菓子にしてほしいくらい。コーヒーにも紅茶にも合うのがバウムクーヘンのいいところ。飲み物をはさめば、すぐ次の一切れに手が伸びるほど、さっぱりした甘さでどんどんいけます。職人さんが丁寧に一つずつ作っているため、待たせることもあって申し訳ないとは農園主さんの弁。いやいや、この美味しさなら、いくらでも待ちますよ。ちょっととした集まりに持参すれば、場が盛り上がることも間違いなし。プレミアムの名にふさわしいとびきりのスイーツです。

メロンバウムプレミアム  
[約976g (高さ約13.5cm×直径約4.5cm)] ※手作りのため、サイズが異なることがあります  
6,900円 (税込・送料別) 賞味期限……冷蔵約5日

お取り寄せ・お問い合わせは  
ファームクーヘン フカサク (深作農園)  
〒311-2102 茨城県銚田市台濁沢371-2  
TEL: 0291-35-5870 (営業時間: 9:30~18:00) FAX: 0291-35-5871  
ホームページ: <https://www.farmkuchen.com/>





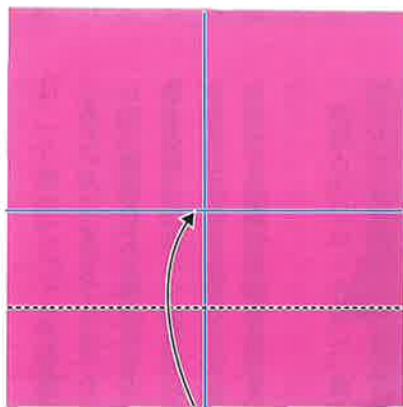


# 雨の小さなお友達 カラフルかたつむり

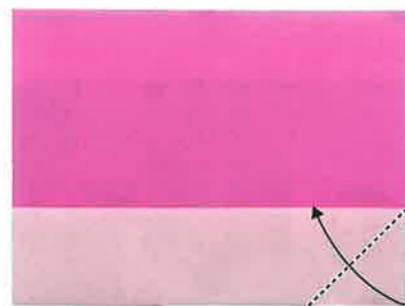


## かたつむり

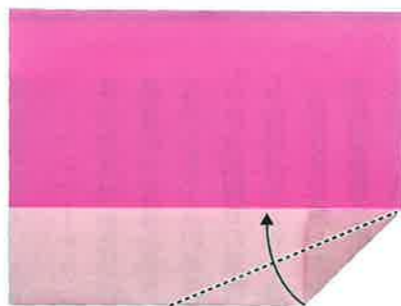
1 十字に折り目を付けて、下の辺を折り上げる



2 右下の角を折る



3 点線で折る



4 中心線で折り上げる



5 左下の角を折る



6 中心線に合わせて折り、裏返す



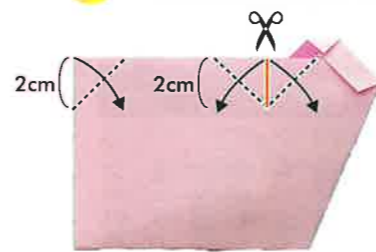
7 点線で折る



8 上の角を折る



9 図のように中心線に切り込みを入れ、点線で折る



10 裏返す



11 図のように切りこみを入れ、点線で後ろに折る

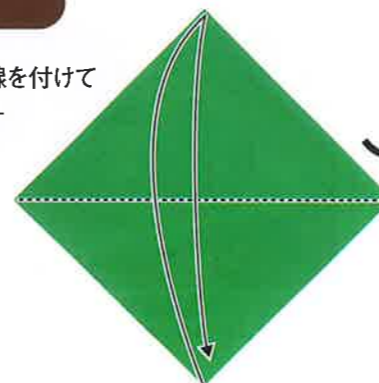


12 丸シールで目を貼り、口やからに模様を描いて完成

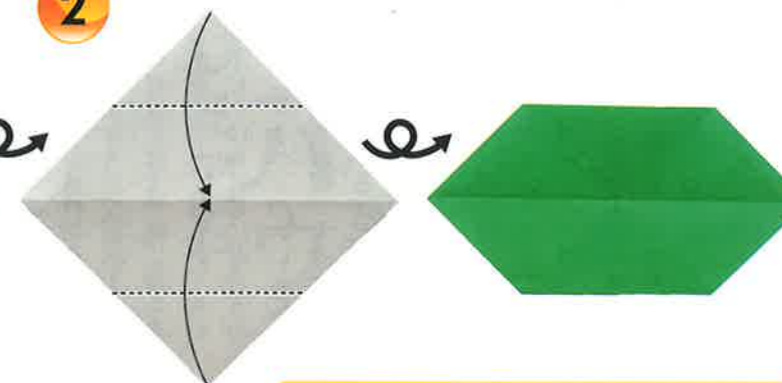


## 葉

1 中心線を付けて裏返す



2 上下の角を中心線に合わせて折り、裏返して完成



葉の上にかたつむりを乗せてかざってね♡

【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トヨー





静岡市はプラモデルの出荷額で国内の8割のシェアを占める。プラモニュメントは2021年から設置されている。

# topics

## 模型の世界首都へ プラモニュメント設置

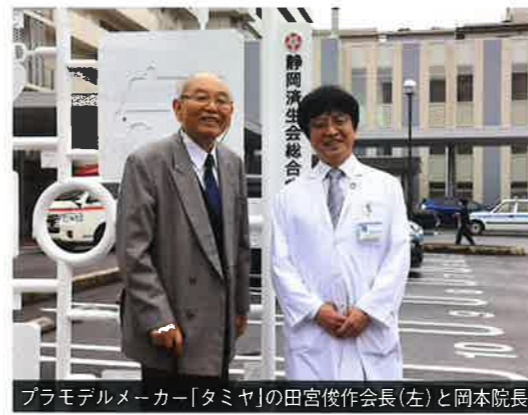
静岡済生会総合病院

3月29日、当院敷地内に設置した「プラモニュメント」のお披露目会を開催しました。

このモニメントは救急車やAEDのピクトグラムをモチーフにしたもので、当

院が静岡市の行なうシティプロモーション「静岡市プラモデル化計画」に賛同したことを内外に示すもの。

お披露目会で岡本好史病院長



プラモデルメーカー「タミヤ」の田宮俊作会長(左)と岡本院長

は、「今回のプロジェクトをはじめとした『まちづくり』を通して、静岡をより魅力的で人が集まる街、住みたくなる街にするために済生会も協力していきたい」と設置の意図を述べました。

静岡市内にはこの他に、郵便ポストや公衆電話、家康公の甲冑などのプラモニュメントがあり、当院のモニメントは市内12基目となります。

(済生記者 酒井あい)

★ガンブラの旧キットを買いに行きたくなりました。あの箱絵を見ているだけでも楽しいんです。(本部広報課 河内淳史)

## 〈千葉〉習志野病院 ミャンマーから特定技能 看護助手3人採用

ミャンマーから「特定技能1号(介護)」を利用した外国人看護助手3人(イさん、チッさん、ムさん)が来日し、3月1日から当院での業務を開始しました。

日に日に厳しさを増す看護助手採用活動を踏まえ、当院では外国人を活用した看護助手の導入を検討。登録支援機関と連携

た安全衛生業務はウェルネスセンターに業務移管。職員が働いて楽しく、幸せに感じることができる職場環境や風土づくりに積極的に取り組めます。

人員構成は、産業医・看護師・心理士各1人、事務員(衛生管理)の産業保健スタッフ2人を配置。健康診断の実施から事



## 成果を共有して 看護記録の質を向上

〈山口〉豊浦病院

しながら、約8か月かけて特定技能制度の理解、院内の周知各種マニュアル整備(ふりがなをふるなど)、生活面での受け入れ体制整備を看護部と事務部で協力して行ないました。3人は入職後、数日間の集合研修を経て、現在は各病棟へ配属されシャドローングで業務を学んでいます。院内の関係部署からの評判もよく、順調なスタートができたのではと感じています。

(総務課 佐藤昌明)

3月14日、看護部記録委員での成果発表を開催し、8人が発表を行ないました。記録委員会は看護記録の充実を図り、看護の質を高めることを役割としています。

成果発表の一例を紹介すると、



看護計画の評価が滞る要因として「看護師の意識の差」があると考えた病棟では、その対策として評価日を個人のロッカーに提示したり、全体の評価実施状況をグラフ化したりするなどの意識付けを行ないました。

また、日程調整せず少人数で集まり課題をその都度解決する「ちよつと来てカンファレンス」を導入したところ、看護計画の評価にもつながり、人材育成に



も効果を発揮したとのこと。終了後のアンケートにはねぎらいの言葉や、今後の参考にしたいなどの意見が多くあり、今後の記録の質の向上につながる良い成果発表となりました。

(血液浄化センター 看護師長 畑野典子)

## 静岡済生会総合病院 ウェルネスセンター開設 楽しく働く環境整備

職員のところからの充実をサポートし、職場への満足度働きがい増進に向けた「健康経営」に取り組む部門として、4月1日、「ウェルネスセンター(職員健康推進室)」を開設しました。

これまで人事課が行なっていた。



後措置、休職者の職場復帰支援、環境測定や職場巡視などの職場環境の整備のほか、職員の心身の健康相談窓口も担当します。

(ウェルネスセンター主査 矢部菜美)



〈兵庫〉 特養ふじの里  
餃子とイチゴに舌鼓

3月21日に利用者さん50人、職員10人で西館恒例の食事をを行いました。  
今回のメニューは「餃子の王将」の餃子と焼きそば、そして皆さんに春を感じてもらおうとデザートに地元の特産品「二郎いちご」を用意。事前に餃子の話をした利用者さんは「懐かしい!」「食べたことないから楽しみ」と好反応でした。  
当日は各ユニットでホットプ



福岡総合病院  
「とっても健康らんど」に出演

KBC九州朝日放送「とっても健康らんど」に、当院循環器内科の長友大輔医師が出演します。3月5日、番組収録が行なわれ「僧帽弁閉鎖不全症 (MitralClipの紹介)」について話しました。  
僧帽弁閉鎖不全症は重症化すると心不全を起しますが、心不全を合併した僧帽弁閉鎖不全症の場合、MitralClipが有効な治療法になります。  
「MitralClip」とはカテーテルを静脈から挿入し小さなクリッ



プで血液の逆流を軽減させる治療法。体の負担が少なく、外科手術を受けられない、もしくは心不全で入院を繰り返している患者さんなどに向けた新しい治療法として注目を集めています。  
収録では、実際に治療をした患者さんへのインタビュー、エコー検査、手術の様子なども撮影しました。テレビ放送は5月4日を予定しています。  
(経営企画課 山田愛梨)

〈宮崎〉 日向病院  
新人同期14人で交流会

4月から職員となるメンバーを招集し、3月27日、新人職員交流会を行いました。  
集まった14人のメンバーは看



護師、理学療法士、事務など職種はさまざま。自己紹介、チームに分かれてのジェスチャーゲーム、所属部署の先輩による部署紹介、質問タイム、歓談など



ボランティアとともに  
より良い病院・地域づくり

〈埼玉〉 川口総合病院

3月19日、計60人(ボランティア45人、職員12人、関係機関3人)が参加して、ボランティア交流会を開催しました。  
当日はトータルボランティア活動時間5000時間表彰、1500時間表彰の8人と3団体に、佐藤雅彦院長から表彰状が授与されました。長年、多くの時間を当院での活動に割いてくださり、そして患者サービスの向上に貢献してくださっていることに対して、感謝の気持ちを込めて表彰状等を

でコミュニケーションを図りました。  
特に盛り上がったのがジェスチャーゲームで、初対面ながらも円陣を組み、鼓舞し合いながら団結する姿が見られました。参加者からは「不安軽減になり緊張が少しほぐれてよかった」などの感想がありました。  
(済生記者 村尾 愛)

岡山済生会総合病院  
新ホームページでSEO対策強化

3月末に当院ホームページをリニューアルしました。見た目の改善もさることながら、徹底的に検索エンジンへの最適化にこだわりました。  
世界のホームページのアクセスの約7割はGoogle等検



お渡ししました。  
また、会食を4年ぶりに再開。普段はゆっくり話をする事ができない職員や仲間同士の会話が弾みました。  
(医療福祉事業課 谷澤舞羽)



素エンジンからの流入に依存しています。例えば地元で就活を検討している看護師や、抗がん剤の副作用を知りたい患者さんなど、岡山済生会のこと何もしらない、岡山とは関係のないユーザーも多いはず。  
そのような人々に対して「岡山済生会」という指名キーワード抜きにホームページを訪れてもらうこと、病院について知ってもらうことに主眼を置きました。新ホームページはWEBコラムを軸にユーザーニーズに沿った情報発信を行い、岡山済生会のブランド強化を目指します。  
(広報企画課 六岡智輝)



フォローアップ研修で1年の成長を実感

〈神奈川〉横浜市南部病院

2月中旬から3月にかけて、入職1年目の職員を対象に「12カ月フォローアップ研修」を実施しました。多職種連携を大切に育みたいという思いで、全職種合同、総勢96人が参加し3回



に分けて行ないました。研修ではまず入職1年間の振り返り「ライフラインチャート」を各自作成し、参加者同士で共有。大変だったこと、楽しかったことなどさまざまな経験がおのおのの成長につながっていることを互いに語り合いました。

次に、4月に目を向け「次年度入職する人にどんな言葉かけたいか」、さらに未来へ目を向け「5年後、どんな病院にしたいですか」と問いかけました。すると、「和気あいあいと皆で協力し合える病院」「患者さんに優しく、職員にも優しく働きやすい病院。そのためには……」など、笑いを交えながらも真剣に討議をしている様子が見られ、とても頼もしく感じました。

(キャリア支援室 副室長

山本佐枝子)

〈山形〉特養やまのべ荘  
和やかなひな祭り

3月4日、桃の節句にちなみ、共同生活室にお雛様を飾ってひ



な祭りの行事を行ないました。20人の入居者さんたちはお雛様を鑑賞しながら「あら、お人形様かわいらしい顔してるね」と声を掛けながら、表情をほころばせて眺めていました。また、音楽会として春の歌

や「うれしいひなまつり」など、職員のアコーディオンの生演奏に合わせて皆で合唱。かわいいひな祭りの和菓子と甘酒を、和やかな雰囲気の中で味わいました。

(介護職員 伊藤真伍)

〈宮崎〉日向病院

新入職員28人を迎えて

新入職員28人が4月1日、新しいスタートラインに立ちました。職種は医療職や事務職などさまざまです。新社会人として、済生会人として、そして日向病院の職員として、ルールから学んでいきます。

オリエンテーション後、辞令交付式が執り行なわれ、院長代行の中平孝明副院長から激励の言葉とともに辞令を手渡されました。緊張した面持ちで受け取る職員のキラキラとした眼差しがとても印象的でした。

翌日からは、スーツから装いを変え配属部署のユニホームに。



永年勤続表彰にみる  
職員エンゲージメント

〈福岡〉特養むさし苑

永年勤続表彰式が3月15日に行なわれ、10年勤続者5人、15年勤続者1人、20年勤続者5人そして功労者表彰1人の合計12人が表彰を受けました。表彰式では、田中俊太施設長から各職員へ感謝状と記念品が手渡され、周囲から大きな拍手

いよいよ、それぞれの研修が始まります。

(済生記者 村尾 愛)



待ちに待った  
クラファンの救急車

〈福岡〉大牟田病院

昨年3〜4月に行なったクラウドファンディングで購入した新しい救急車が、3月15日、納車となりました。

導入から25年ほど経過したそれまでの救急車は、車体・装備品の老朽化が進み、病院間の患者搬送が消防の救急隊出動件数の10%超を占める今日、救急隊の負担となっていました。

納車当日は30人ほどの来賓を



招き、交通安全祈願の神事を実施。テープカット・鍵受け渡しの式典をもって納車を祝いました。

「いつ来るのかこの日を守っていました」「これで大牟田も安心やね」と、寄付者の声。改めて当院の果たすべき使命を感じ、気の引き締まる思いがしました。

(済生記者 松岡 健)





## 新キャラクターお披露目

新潟病院

昨年5月に新潟市救急医療拠点病院となったことを受け、より広報活動に力を入れようと、経営管理層をモチーフにした新しいキャラクターを制作しました。

院長の「てらすくん」、看護部長の「しいちゃん」、事務部長の「たけくん」は、いずれもほんわかとした親しみやすさがウリ。3月に発表後、手始めにキャラクターを印刷した



アクリルスタンドを外来窓口や各部署内に設置しました。また、広報写真撮影の際に登場させSNSで配信しています。

早速、採用活動のイベントでも活用。キャラクターを派手にあしらったTシャツを着た職員がブースへの呼び込みを行な

ったところ、たくさんの学生さんが立ち寄ってくれました。

さらに、キャラクターのLINEスタンプまで作ってしまいました。目下、副院長らをモチーフにした第2弾も検討中です。

(総務課 吉川未織)

## 看護師特定行為研修 第1期生3人が修了

第1期生看護師特定行為研修修了式を3月22日に行ない、中司謙二院長から3人の受講生(1人欠席)に修了証が授与されました。

当院は昨年2月、「特定行為に係る看護師の研修制度」の指定研修機関となりました。

第1期生3人は1年間かけ、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」の区分別科目の研修・実習を修了しました。



(経営企画室長 日高滋規)

## 新入職員89人を迎える

桜が咲き始めた4月1日、入社式を挙行し、合計89人(研修医12人、看護職60人、医療技術職7人、事務職10人)の新入職員を迎え入れました。高卒、短大・専門卒、大卒、既卒者と幅広い年齢層です。

(埼玉) 川口総合病院



佐藤雅彦院長は一人ひとりに辞令を交付。「全病院職員が皆さんを歓迎している」という思いを伝えるとともに、「済生会の理念」や「社会人・医療人としての期待」について訓示しました。

また、幹部職員からは「節目は自分を変えるチャンス」「チームで働く意識が大切」などの講話があり、皆さん緊張しつつもしっかりとした眼差しで聴いていました。

新入職者からは「佐藤院長から辞令をいただいた身が引き締まった」「社会人としての自覚が芽生えた」など

## びわ湖マラソンで救護活動ボランティア

3月10日に開催された「びわ湖マラソン2024」において、当校2年生34人が救護活動ボランティアとして参加しました。

万が一に備えてAEDや心臓マッサージの訓練を行ない、



の感想があり、よい緊張感を持った新年度をスタートすることができました。

(事務部人事・総務課 本橋和宏)

## 〈宮崎〉日向病院

### 「さくら時間」を楽しむ

4月2日は回復期リハビリテーション病棟のレクリエーションの日。今回は、スタッフ・患者さん20人で病棟を飛び出し、病院西側にある桜の樹の下でお花見をしました。

皆さんの二手に分かれてフリスビーを競いました。

天候は曇りでしたが、みなさんは終始笑顔で、桜の花と春の空気をたっぷり堪能できたようです。

(済生記者 村尾 愛)



当日は、新年度を迎え新しいスタートを祝うかのようになり、春全開です。参加者全員で「さくらさくら」を合唱し、その後スタッフと患



全床電動ベッドへクラファン第一目標達成

当院の患者さんの平均年齢は81歳。高齢の患者さんにとって、誤嚥性肺炎や廃用症候群の予防のためにベッドの上で気軽に上体を起こせることは極めて重要です。しかし当院では、全150床のうち61床が未だ手動式ベッドとな



ついでいます。そこで3月12日、電動ベッド50床の導入を目指してクラウドファンディングを開始しました。4月10日には、第一目標の700万円を達成。賛同していただいた皆さんのご支援に感謝いたします。しかしながら、50床の電動ベッド更新には1500万円もの費用がかかります。次の第二目標1000万円を掲げ、

〈広島〉 呉病院



4月30日まで挑戦を続けました。  
(済生記者 上條武志)

〈神奈川〉 金沢若草園

待ちに待った1泊旅行

3月8〜9日、利用者さんと職員合わせて53人で河口湖と富士サファリパークへ1泊2日の旅行に行ってきました。出発の2週間ほど前から利用者さんは旅行の話題が増え、その日を楽しみにしている様子がかがえました。当日は観光バス2台に分乗して出発。河口湖を一望する宿に到着し、夕食は宴会場でゆっくと会席膳をいただき、お酒を飲んだりカラオ



ケを歌ったり、かわす話に華が咲きました。翌日は一番の見どころ「富士サファリパーク」へ。ライオンやヒョウなどの動物を車窓か

〈山形〉 はやぶさ保育園  
バスに乗ってお花見へ

4月1日、新たな「はやぶさ」つ子を迎えるとともに、昨年



度大きく成長した子どもたちが一つ上のクラスに進級しました。新年度の幕開け早々、3歳児23人は4月11日、4歳児24人は

〈山口〉 豊浦病院

日々のアイデアと見直し  
業務改善に

令和5年度業務改善委員会取り組み発表が3月21日に開催され、筆者を含め10人が参加しました。順番を待っている間は緊張しましたが、無事に発表を終えることができました。筆者は今回、定時業務終了への対策について発表。タイムキーパーの役割を設定し、病棟内でタイムスケジュールを意識しながら応援体制を強化することで、定時業務終了を目指していくというものです。この取り組みの結果、超勤時間が2割減少しました。



慢性的な人員不足の中、日々アイデアを取り入れ見直しをすることは、業務改善に不可欠です。各病棟の取り組みは興味深く、参考になるものが多くありました。  
(5階東病棟 看護師 川並節美)

これまで当院のホームページにはなかった「臨床研修医特設サイト」が、3月末にオープンしました。サイト開設に際しては、広報委員長でありサイト制作に熱い思いを持つ後藤浩之脳神経外科部長のもと、プロジェクトチームを結成。「研修がしたい、魅力ある病院」をテーマにコンテンツを考えました。

「臨床研修医サイト」  
オープン

〈大阪〉 中津病院

12日、5歳児19人は16日、クラスごとに園外保育でバスに乗ってお花見に行きました。中でも3歳児の子どもたちは初めてのバスでのお出かけに大喜び。車窓から景色を眺めながら、さまざまな会話が飛び交っていました。桜のある公園に着いてからは春を感じながら桜の近くを散歩したり、約束を守りながら公園で遊んだり、のびのびと楽しむ姿が。子どもたちは終始笑顔が絶えず、その表情からも皆にとって最高の一日になったようです。  
(済生記者 齋藤里奈)



トップページの写真は、12月の寒空の中屋上に上がり、自分たちで撮影したもの。天気よかったものかなり寒く、研修医の先生方は震えながら撮影に協力してくれました。今後も新しい仲間に出会えることを楽しみに、さらにサイト内の内容を充実させていく予定です。皆さんもぜひ一度ご覧ください。  
(済生記者 鈴木亜希乃)



〈埼玉〉川口総合病院  
全職種合同での新人研修

4月1日の入職式終了後、3日間にわたり全職種合同の「新人オリエンテーション」を実施しました。  
組織トップからの「メッセージ」を視聴すること」に意義があると考え、まずは炭谷茂理事長談話をビデオで視聴。その後、なでしこプランの講義へと進み、初日に済生会の理念をしっかりと学びました。以降、仕事をやる姿勢、社会人マナー、防犯、SNSの危険性、院内感染対策、医療安全、保険診療などについて学びました。  
座学だけではなく、先輩看護



師の指導によるBLS（一次救命処置）実習、本館屋上からの避難経路確認・インフラ設備見学などを盛り込んだ災害対策訓練も実施。さらに、さまざまな立場・視点から学び合うワークショップを行ない、最後に一人ひとりに「済生会人としての決意表明」をしてもらい3日間の研修を終えました。  
（事務部人事・総務課 本橋和宏）

〈熊本〉済生会ウイズ  
音楽とベタンクで  
盛り上がる

就労継続支援B型利用者の日中活動を2月10日に行ない、18人が参加しました。  
午前中は音楽鑑賞。ボランティアの方に来ていただき演歌を



中心に歌唱を楽しみました。鑑賞後は、ボランティアの方にお礼のお手紙を書きました。  
午後は熊本福祉センター内の多目的ホールでベタンク大会。ベタンクは、目標球により近づけるように金属製のボールを投げ合って競うというゲームです。やるのは久しぶりながら皆さんの好プレーが連発し、終始盛り上がりました。職員も途中から参戦しましたが、力が入りすぎたりコントロールが難しかったり。簡単に見えて奥が深いスポーツだなと痛感しました。  
日中活動を計画する際、つい

当院オリジナル！  
かわいい出生届できました

滋賀県病院

近年さまざま  
まなデザイン  
の出生届が増  
え、「かわい  
い出生届で提  
出したい！」  
という妊婦さ  
んからの需要  
が高まってい  
ました。それ  
ならば、と産  
科の医師や6  
東病棟の看護  
師、資材課が

協力し、当院オリジナルのかわい  
いイラストを配置した出生届  
を作成しました。  
出生届は医療従事者にとって  
も妊婦さんやご家族と同じ喜び  
を共有できる大切なものです。  
医師は無事に生まれてきてくれ  
たことへの感謝の気持ちと赤ち  
ゃんの健やかな成長への願いを  
込めて、一文字ずつ大切に記入  
しています。  
すでに今年度から使用を開始

外出を優先して考えがちですが、  
施設内で音楽やスポーツをゆっ  
くり楽しむ活動の良さを改めて  
体感した一日でした。  
（支援員 平生有莉耶）



しており、医師からも記入する  
のがより楽しくなったと好評で  
す。  
（経営企画課 西澤真由美）



〈愛媛〉松山病院  
倫理・接遇研修に活気

4月1日、昇任者12人、入職  
者・定年再雇用者43人に対し、  
宮岡弘明院長が辞令交付を行な  
いました。

続いて、中途入職者を含む採  
用職員33人に対してオリエンテ  
ーションを実施。宮岡院長をは  
じめ各担当職員が、職員とし



ての心がまえ、済生会について、  
安全・感染対策などの講習を行  
ないました。

翌日の午前中には、株式会社  
よんやくの三神心里さんを講師  
に招き「倫理・接遇研修」を実  
施。仕事への向き合い方やビジ  
ネスマナー、電話対応の実践を  
行なった後、医療に求められる  
倫理について学びました。

講義を聴くだけでなくグルー  
プワークも含まれており、活気  
ある研修となりました。  
（総務課 藤井一哉）

〈群馬〉前橋病院  
新広報誌「es」創刊！

年4回発行の当院広報誌を4  
月に全面リニューアルしました。



当院職員と外部コピーライ  
ターとで協議し決定した新  
広報誌の名称は「es」（エ  
ス）。Saiseikai（済生会）のS、  
Save（救）のS、Engage（地  
域と済生会をつなぐ）のE、複  
数形（一人じゃなくみんな）の  
es……これらすべての意味を  
込めました。  
昨年行なったホームページリ  
ニューアル、YouTube開設に  
続き、三位一体の広報を目指し  
て15年以上同様のデザインで発  
行してきた「済生会だより」ま  
えばしくを思い切って刷新。  
これからも当院の「旬」な情報  
を皆さんにお伝えできるよう制  
作に努めていきます。  
（済生記者 川上佳代）





3月25日は職員2人が腕を振るい、泊まりの利用者さん7人に和食御膳として天ぷら、お刺身、きゅうりの酢の物、炊き込みご飯、赤出汁を提供しました。ノンアルコールビールで乾杯をした後、皆さん笑みを浮かべながら召し上がっていました。食事中も「久しぶりにおいしいご飯を食べたわ。うれしいわ」と満足そうでした。

(複合課 介護副主任 兵頭達也)

〈新潟〉 特養長和園  
食は人を幸せにする

2月21日のお昼に「イベント食・握りずし」を実施し、希望者13人が参加しました。皆さん、久しぶりのイベント食に「寿司が食べられるなんてうれしい」「楽しみだね」と食べる前からとても喜んでいました。

寿司職人は、長和園が運営するデイサービスのベテラン調理師、富澤正美さん。「どれもおいしい」「ネタが良い」と大好評で、富澤さんも「こんなに喜んでもらえてやりがいがあります。また握りに来ますよ」と会話が弾んでいました。

イベント食を実施し、改めて「食は人を幸せにする」ことを実感しました。おかわりする人、ふだんは少食なのに完食する人など、いつもと違う昼食の風景が見られました。

(済生記者 西川まゆみ)

〈三重〉 松阪総合病院  
DMAT協力で感謝状贈呈

令和6年能登半島地震被災地へのDMAT派遣(延べ13人)

に際してご尽力いただいた2事業者に、3月5日、感謝状を贈呈しました。

その事業者とは、松阪市鎌田町のクリーニング業「デアドラSANCU」と、松阪市美濃田町の自動車整備業「ミノダ自動車工業」。中1日でのDMAT派遣となり、両者の献身的な協力がなければ間に合わせることが困難な状況でした。

清水敦哉病院長は「特に第1回、第2回は発災から間もない、支援が一番必要とされる頃で、皆さんの協力でスムーズに活動できありがたかった」と感謝を伝えました。

(事務部用度課 田端雄輔)

〈兵庫〉 小規模特養なでしこ神戸



なでしこ旅館で和食御膳

看護小規模多機能型居宅介護などでしこ神戸では、泊まりの際に利用者さんに旅行気分を味わっていただくよう夕食会のイベントを行なっています。

〈広島〉 老健はまな荘  
就職フェアに合同でブース

3月2日、広島県立広島産業会館で開催された県内最大の「春の福祉就職総合フェア」に、当施設と併設の特養たかね荘、たかね荘こやうらとの合同でブースを出展しました。

この日、実際に来場した求職者は216人。中には介護職員だけでなく、介護施設で働きたい看護師、セラピスト、管理栄養士、事務員等も含まれており、改めて介護職員不足の深刻さを再認識しました。

今後も就職フェアへ参加する

〈兵庫〉 特養ふじの里

実践を通して  
倫理的課題に向き合う

業務の上で倫理的課題があっても、人手不足や忙しさを理由に、自身の対応を振り返る機会が少なくなりがちです。当施設では、倫理的課題に取り組む風土が醸成されるように、毎年倫理について学んでいます。

令和5年度は各部署で課題に取り組み、10月に中間報告会、3月12日に年間報告会を開

催。年間報告会には27人が参加し、11部署それぞれ4分間の持ち時間で、1年間の取り組みを発表しました。

特養東館では、入職2年目の東郷明日香介護福祉士が発表。先輩職員のサポートを受けながら、活気あるフロアづくりを目標に課題に取り組んでいることが分かる内容でした。

働く部署は違いますが、若手職員が立派に成長していると感じた報告会でした。

(済生記者 山下芳樹)





〈愛媛〉 老健にきたつ苑  
市民フォーラムに1000人超  
人生100年時代を健康に

3月16日、「人生100年時代を健康に暮らそう」をテーマに、第9回済生会松山在宅医療



市民フォーラムを当苑で開催しました。当日は1000人を超える地域住民が参加。脳外科医の角南典生・福角病院院長が「あなたの脳は大丈夫?」、石田美津子・松山病院管理栄養士が「脳の病

気って、食事と関係あるってホント?」と題して講演を行いました。

後半は、血圧や血管年齢、骨密度を測定する体験コーナーや健康相談コーナーに予想以上の人が押しかけ大混雑に。そこは反省点でしたが、地域住民の健康への意識の高さに改めて驚かされました。

来場者プレゼントは手作りおはぎに全粒粉パン。松山医療・福祉センター内で協力して作ったもので、チームワークの良さが発揮されました。

(松山訪問看護ステーション 田村美樹枝)

〈山形〉 特養愛日荘  
茶菓子とともに意見交換

3月19日、当施設2階の談話ホール「こもれび」で恒例のお茶のみ懇談会を実施しました。

阿部久施設長、大泉克仁管理課長、ユニットの入居者代表5人が、生活に対しての意見や要望を話し合う機会となっており、コーヒーやお茶を飲み、ご当地の名物を使用したお菓子を食べながら懇談しました。

昨年の懇談会で出た意見や要



望は概ね達成されていたことを確認しましたが、感染症の対応もあり、「自宅に外泊したい」という要望の実現には課題が残りました。今後に向けては、余暇活動の充実や食事に関する要望のほか「競技会をしたい」「他のユニットの入居者と交流し勉強したい」などの提案も。

中には「今でも十二分にしてもらっているし、安心して暮らしています。職員も入居者も家族と思っています」といううれしい一言もありました。

(済生記者 高橋 睦)

「明和病院介護保険部門」スタート

〈三重〉 明和病院

明和グループでは、4月1日付けで従来の訪問看護ステーション・居宅介護支援センター・訪問リハビリ・通所リハビリの4拠点を統合し、新たに「明和病院介護保険部門」としてスタートを切りました。

なりました。それにより明和グループの多事業を生かした済生会明和連携バス(退院後も安心して安全な生活を送れるように入院中からケアマネや介護サ―ビス事業所スタッフと連携を図る仕組み)へつなげやすくなり、患者さんへのサービス向上が期待できます。

(済生記者 藤岡拓人)

山口総合病院

旧西棟・東棟の解体工事了

昨年1月に着工した2棟の解体工事が終わり、竣工検査を実施しました。

3棟あった既存棟のうち、旧西棟と東棟の2棟を解体。解体用カッターで建物の縁切りを行ない、その後、大型重機を使い上層階から解体していく作業を繰り返し、工事期間は約14カ月に及びました。

振動や騒音が手術や診療に影響を及ぼすこともあったため、作業を中断・延期するなどして、影響を最小限にとどめるよう努

第4回中央ブロック連携会議  
4年ぶりの対面開催

〈栃木〉 宇都宮病院

3月19日、宇都宮市医療・介護連携支援ステーション運営業務委託事業として、令和5年度4回目の「中央ブロック連携会議」を当院研修室で、4年ぶり



意見交換の時間では、「複雑化・複合化した事例検討を行ないたい」「身寄りのない人の支援に関する地域のガイドラインを作成したい」「BCPにつなげるため、実際の災害援助の状況について勉強したい」などの活発な提案がありました。

(地域連携課 秋山綾香)

訪問看護や通所リハビリなど、多事業を生かしてより一層の連携強化を図る明和グループ



## 人命救助で鈴木教員に感謝状

〈大阪〉野江看護専門学校

3月19日、当校の鈴木紗矢香教員に京田辺市消防長から感謝状が授与されました。

昨年10月29日、京都府のバイクレース専用サーキットで、競技中の50代男性が転倒し心肺停止状態となる事態が発生しました。同競技に参加するためその場にいた鈴木教員



は、2人の医療関係者とともに心臓マッサージ、AEDによる救命処置を実施。男性は搬送先の病院で意識が回復し、現在は社会復帰しているそうです。

当時の心境について鈴木教員は「息子の『心臓が止まってる人がいる』の声で現場に向かうと、知人の看護師2人が初期対応を始めていた。看護師を養成する立場で必要な研修を受けていたので、各人が何をするのか声に出して対応することができました」と語りました。

（済生記者 坂本千晶）

## 救急拠点病院として取り組み強化

新潟病院

昨年5月末に市内での新たな救急拠点病院に選定されてから早くも10カ月が経過しました。この間、救急車の受入強化を行った結果、昨年度の救急車受入台数は当初目標の3500台を大きく超えて4500台に達し、前年度の約1.5倍となりました。

救急拠点としての整備に向けて、まずは多職種で構成する4つのワーキンググループを設



け、課題を共有し解決策を検討。救急外来の拡張や医療機器の導入、スタッフ増員の他、病棟再編、医師採用活動の強化、入院調整業務支援システム導入などに着手するとともに、地域の医療機関と意見交換しながら連携強化を図ってきました。

さらに、今年1月からは紹介受診重点医療機関として、原則として紹介状のある患者さんのみ外来診療を行ない、入院患者・救急患者に注力していく体制の構築に取り組んでいるところだ。

（救急拠点推進室 古川陽之）

## ヘルスケアの新ビジネス創出をまちづくり

北海道済生会

小樽病院と大型商業施設「ウイングベイ小樽」を市民の福祉サービスの拠点とする「ウェルネスタウン構想」の取り組みが評価を受け、経済産業省が実証



高岡病院の小樽視察



さっずでらす Diveを活用したりビングラボ(骨粗しょう症予防)



ウイングベイ小樽内のウォーキングコース

高岡病院で実施された「ちょこっと健診」を地元メディアが取材

事業開始は昨年8月。同年10月には健康無関心層との接触を目的とした「ウェルネス知恵袋」を開発し、市民が健康づくりに取り組むとポイントがたまる仕組みを導入しました。また、平成25年から継続して行なっている小樽病院の「ちょこっと健診」では、企業と連携した利用促進イベントを実施し、健診への新規利用者を増やすことに成功しま

## 〈埼玉〉加須病院 医学検査学会で優秀発表賞

昨年12月3日に開催された第51回埼玉県医学検査学会で、当院臨床検査技師の菊池航介さんと加藤鉄平さんが優秀発表賞を受賞し、3月18日に授賞式が行なわれました。

菊池さんは「全自動尿中有形成成分分析装置 UF-5000における [Atyp.C] の有用性の検討」、加藤さんは「多発性骨髄腫で見られたクリオグロブリンにより測定を苦慮した1症例」を発表しました。

猪浦一人科長は「学会は普段業務で会うことのない多くの方と意見交換する



ヤンスです。自分の発表テーマをきちんと理解し、相手に伝える力は本人たちにとって非常によい経験となります」と思いを語りました。

（済生記者 蓬田絵里子）

した。

このような地域住民に関わっていく取り組みにより、市民の健康意識が高まり行動変容につながる実証されました。なお、全国済生会病院への事業の横展開も計画しており、その第1号として高岡病院が取り組みを開始しています。

（ソーシャルインクルージョン推進室長 清水雅成）



# topics

## 満開の桜の下で 笑顔も満開

4月9〜12日に花見ドライブを企画し、28人の入居者さんと花見を楽しみました。

山形は4月中旬から下旬に桜の見頃を迎えますが、今年は天気が良く気温の高い日にも恵まれ、例年より少し早く花見シーズンを迎えました。

車を降りると春風に揺れる満

## 〈山形〉特養ながまち荘

人間ドックや生活習慣病予防健診、市の個別がん検診など、特に受診率の多いものや今後力を入れていく健診は、アクセスしやすい導線設計に。また、ウェブ上で仮予約できるシステムを構築し、オプション検査も健診ごとを選べる仕組みにしました。

利用者さんから早くも「見やすくなった」「予約までがスムーズになった」などの声をいただき、ウェブ仮予約も徐々に増え始めています。6月に公開する病院サイトと連動し、予防医療の啓発にも取り組む予定です。

（済生記者 蓬田絵里子）



開の桜並木！「うわー！」という歓声とともに、桜にも負けない満開の笑みを見せてくれました。

帰りは少し遠回りをして市内をドライブ。昔と変わった街並みに切なさを感じている様子もありましたが、皆で春の歌を歌ったり、「ここで面白い物してたんだ。このだんごがうまいんだ」などと昔話に花を咲かせた

りしながら、春の訪れを味わい楽しむことができました。

（副主任介護員 結城美咲）

## 17年ぶり、脳外科に常勤医師

4月1日、当院会議室で新規採用者10人（医師3人、看護師7人）の辞令交付式を行いました。

## 〈鳥取〉境港総合病院



この度昇任した職員や新規採用者に対し、豊島良太・新支部長（前鳥取大学学長）から辞令交付書が手渡されました。その後、豊島支部長、佐々木祐一郎病院長、新規採用医師で記念撮影を行いました。

新たな人材の加入に湧く現場ですが、特に注目を集めているのが脳外科の近藤慎二医師。脳外科の常勤医着任は当院にとって17年ぶりとなります。

（済生記者 亀尾美子）

## 医療政策・医事研究部会

### 令和5年度 全体会議

（最終レビュー）



## 1年間の活動総まとめ

### 医療政策・医事研究部会

医療政策・医事研究部会の令和5年度全体会議が3月14日、アクロス福岡で開催され、各ワーキングチームが1年間の活動の最終レビューを行いました。

令和5年度は

全国から集結した約70人のメンバーが六つのワーキングチームに分かれ、それぞれが高い専門性を持って研究に取り組みました。

模擬適時調査を中心とした施設基準管理に関するもの、加算の算定強化、そしてDX関連——今後あらゆる病院が直面する普遍的なテーマが設定され、メンバーそれぞれが意義深い1年間を過ごしたように思います。

（事務局／福岡総合病院 経営企画課 新田 怜）

## 〈大阪〉泉尾病院

3月15日、当院の救急業務運営協力医療機関としての長年の活動について、大阪市消防局か



ら感謝状をいただきました。授与式のため、大阪市消防局大正消防署から救急担当司令・茨木信行氏、地域担当司令・梶原雄治氏が来院。「近年はコロナ禍により救急需要が急増する中、皆さんと協力・連携しながら窮地を乗り越え、地域の医療を守ってこられたことに深く感謝申し上げます」とのお言葉をいただきました。

これを受けて平居啓治病院長は「『断らない医療』をモットーに救急受け入れ体制を強化し続けてきた当院にとって、このような名誉ある感謝状をいただくことは大変光栄です。職員一同、より一層努めてまいります」

## 健診センターサイトをリニューアル

### 〈埼玉〉加須病院

当院健診センターのウェブサイトのリニューアルが完了し、4月1日公開しました。

新サイトの特長



は「見やすく、情報が探しやすい」こと。制作会社と打ち合わせを重ね、情報の整理や見せ方などデザインの工夫を凝らしま

す」と御礼の言葉と新たな決意を示しました。

（済生記者 中堂佑亮）





〈愛知〉三河青い鳥医療療育センター

臨床歩行分析研究会に100人

第44回臨床歩行分析研究会定例会を、3月2・3日、ウインクあいちで開催しました。当セ



ンターが大会事務局となり、則竹耕治センター長が大会長を、伊藤忠理学療法士が準備委員長を務めました。

この定例会は、普段歩行分析の研究をしていなくても参加できる内容に工夫したこともあり、100人以上の医療従事者が全国規模で参加しました。

当日は、基調講演として則竹センター長が、歩行分析を脳性麻痺の治療診断の評価ツールとして活用する方法を中心に話しました。特別講演、教育講演、一般演題などでは活発な質疑応答や意見交換が行なわれ、大盛況のうちに終了しました。

〈三次元動作解析室 伊藤 忠〉

〈栃木〉宇都宮病院 看護専門学校

広報ツール 全面リニューアル

昨年4月に看護学校ブランドイング戦略プロジェクトを立ち上げ、宇都宮病院とも協力し、学生を集めるための取り組みを検討してきました。その一環で、3月21日、看護学校ホームページを全面リニューアルしました。下層ページの内容・掲載場所

を整理し、国家試験対策などの新規コンテンツも加え、学生が知りたい情報にアクセスしやすいう設計。また、オレンジをベースカラーに、写真を多く掲載することで、学校の楽しい雰囲気や伝わるものになりました。さらに、ホームページのデザ



インに合わせてパンフレットもリニューアル。ページ数を増やし内容を充実させ、QRコードを掲載することでホームページに誘導する仕掛けを新たに加えました。

〈済生記者 川原彩花〉

〈福井〉特養聖和園

懐かしのヒットソングに盛り上がる

市内の70代4人組バンド「サウンドナナマル」によるコンサートを3月24日、当園ホールで開催しました。

演奏曲は「亜麻色の髪の乙女」

「きみといつまでも」「ニューシネマパラダイス」など、懐かしのヒットソング。ホールに集まった利用者さんは約60人はボカルの熱唱に手拍子で応え、一緒に歌詞を口ずさむなど、会場が一体となって盛り上がりました。

まだまだお若い70歳のバンド

メンバーの皆さんから、歌声とともにエネルギーが溢る英気まで分けていただき、すてきな時間となりました。

〈済生記者 野尻 宗〉

看護研究発表会に49人

〈滋賀〉守山市民病院



2月22日、看護研究発表会を院内で開催しました。今年は49人が参加し、全9演題の発表がありました。

優秀賞は、人工透析センター・松井千咲看護師の「腎臓リハビリテーションがもたらす行動変容」。

医師や議員らと「緩和ケア病棟連携の会」

3月7日、「第一回在宅医療水戸済生会緩和ケア病棟連携の会」を当院丹野ホールで開催しました。

当日は水戸市内の医師や看護師、市会議員など合計34人が参加し、水戸市の在宅医療や介護連携について意見を交わしました。

緩和ケア内科の高久秀哉主任部長は「安心してもらうで過ごせる水戸市をつくらう」を目指し、水戸市エンディングノートの実用方法やACPに関する情報の共有方法について話し合い、実りある

段以上に患者さんの気持ちを聞くことができた。今後も運動を続けられるような後押しをしていきたい」と松井さん。今後、病院内外の研究会などでも発表を行なう予定です。

〈済生記者 中嶋元香〉





静岡済生会総合病院  
美しい音色に心を癒やして

3月28日、ピアノリストの小泉美佐子さんとバイオリンリストの橋本知歩さんによるミニコンサートを、当院北館1階外来受付



付近で開催しました。このコンサートは、NPO法人アートコネクトしずおかが主催し、公益財団法人アイワ文化福祉財団の協力により実現。アートコネクトしずおかの遠藤次朗理事は「不安を抱えて来院

される方が、芸術に触れて少しでも気持ちが和めば」と開催の主旨を述べました。

当日は外来患者さんやご家族、入院患者さんなど約100人が集まる中、ベートーベン「ロマンズへ長調」やクライスラー「愛の悲しみ」など9曲を演奏。入院中の子どもたちも「素敵な音色だった」と楽しんでいました。(済生記者 酒井あい)



〈石川〉金沢病院

臨床研修医2人に修了証

当院では金沢大学附属病院と連携して臨床研修医の研修を行っており、令和5年度は2人



の初期研修医が在籍していました。

3月27日、当院での1年間の研修を終えた川田薫医師、9カ月間の研修を終えた上出貴洋医師に対し、荒木勉院長から研修修了証が手渡されました。

荒木院長は自身の研修医時代の経験も踏まえて、当院での研修を基礎として今後の医師としてのキャリア形成に生かしていただきたいと激励しました。

川田医師、上出医師からはそれぞれ、貴重な経験ができたことや指導医・看護師に対する感謝の言葉がありました。(事務部次長 山口 毅)

〈大阪〉野江特養城東園

造幣局特別観桜会

4月4日、毎年一般公開の前日に行なわれる造幣局の特別観桜会に招待され、当園から3人が参加しました。

当日はあいにくの曇り空であったこと、例年より10日ほど早かったせいか、満開にはまだ早い桜でした。参加した利用者さんは「きれいだね。でも、隣

〈大分〉日田病院

Excel事例を報告・共有

3月19日、全国済生会事務(部)長会・情報システム部会主催の「Excel事例報告会」に参加しました。

オンライン会議ツールZoomを利用したウェブ会議形式で行なわれ、参加者による報告7例と事務局が取りまとめた報告5例の計12例について、8人が発表を行ないました。

当院は、出張旅費精算時の会計処理(伝票作成業務)の際に、Excelと会計ソフトとの連携機能を利用した事例について報告しました。

事例発表後、他病院の経理課

の大川の桜の方がよく咲いているね」と言いつつも、普段は見られないような表情を浮かべていました。

この日は招待のため3人しか参加できませんでしたが、当園すぐそばの城北川沿いにも見事な桜の木がたくさんあります。天候と開花状況を見ながら、利用者さんやご家族をお連れしたいと思います。(係長 相談員 中西茂人)



の人に興味を持っていただけたこと、またさまざまな事例報告も共有できたことで、大変有意義な時間となりました。(経理課 浦竹美優紀)

〈埼玉〉加須病院

採用総合サイトをオープン

昨年度から取り組んでいたホームページリニューアルの一环で、採用総合サイトを新たに作

成し、4月1日に公開しました。あらゆる職種の人を対象とするため、白背景をベースに優しく清潔感のあるイメージで統一。当院に興味を持って



いただくことを主眼に置いたデザインにしました。さらに、加須市のマップをメインに据え、同市へ新築移転した新しい病院の存在を視覚的に伝えるなどさまざまな工夫をしました。

また、職種ごとに仕事内容や募集要項などを分けてページを構成。情報量の多い臨床研修医・専攻医・看護師については特設ページを用意しました。(済生記者 蓬田絵里子)

また、職種ごとに仕事内容や募集要項などを分けてページを構成。情報量の多い臨床研修医・専攻医・看護師については特設ページを用意しました。







昨年度から厚労省の特定行為研修指定研修機関となった当院にとって、記念すべき第一期生5人が3月15日、「栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）」

特定行為研修第一期生カリキュラム修了

（大阪）吹田病院

「関連」のカリキュラムを修了しました。

この1年間で、さまざまな壁を乗り越え、業務と並行しながら学んだ研修生たち。修了式では外部委員も参列する中、決意を新たに今後の抱負を語ってくれました。現在は、学んだ知識・技術を生かし、日々、特定行為の実践を積み重ねています。今年度からは新たに「栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）」「関連」「腹腔ドレーン管理関連」「動脈血液ガス分析関連」を開講。さらなる医療・看護の質の向上に努めています。

（看護部長室 専門師長 高橋安里）

事業所内に保育施設竣工

滋賀県病院

事業所内保育施設の竣工式を3月25日、建設された新事業所内保育施設内で執り行ないました。

三木恒治院長、松村智子看護部長をはじめ、建設会社や設計



事務所の関係者6人が出席。工事が無事完了したことへの感謝と、保育所の長期的な安全を祈願しました。新たに移設した保育施設は、復職後も子育てと仕事の両立を支援するため、最大50人の職員のお子さんが利用可能。夏休み期間等の長期休暇の際には学童保育を受け入れる広さを確保しています。

4月から利用を開始していますが、8月には、京都芸術大学の皆さんのご協力のもと、「豊かな感性を育む森と湖のなかまたち」をコンセプトとしたさまざまな絵を内装の壁面に描いて

筆者はシステム管理室職員として、電子カルテやグループウェアについて説明。緊張気味に研修内容をしっかりと学ぶ新入職員たちを見てみると、自分が期待と不安を胸に当院へ入職した日のことを思い出してしまいました。

早く職場に慣れ、チームの一員となり活躍できるようにになりたい——そんな意気込みも聞かれ、フレッシュなエネルギーと新しい視点で日田病院を担う人材になることを期待しています。

（済生記者 冷川和永）

夢と情熱を胸に17人入職

（大分）日田病院

春の訪れとともに、今年も17人の新入職員が、我々の仲間入りを果たしました。

4月1日の入職式に続き、当院では2日間の新入職員向けオリエンテーションを実施。済生会の理念や法令遵守、接遇、各種の業務内容などについて学んだ後、消火器の使用方の講習や患者さんの避難誘導訓練も行なわれました。



〈茨城〉水戸済生会総合病院 倍率4倍！ 大人気の病院体験ツアー！

3月9日、県央地域の小学5

年生（中学3年生を対象とした病院体験ツアー）を当院で開催しました。水戸市をはじめ県央9市町村の連携事業として行なうもので、30人の募集のところ応募が120人と大人気。水戸市から約30キロ離れた市町村からも参加がありました。

当日は、午前はドクターヘリやコメディカルの職場見学。午後は3グループに分かれ、縫合や心音聴取、リハビリなどの医療体験と盛りだくさんの内容となりました。午前中はなかなか緊張が解けなかった子どもたちも、午後には真剣な表情で医療体験に没頭し、上手にできると満面の笑みを浮かべていました。参加者は「病院は怖いイメージだったけど、仕事を体験してイメージが変わった」「皆さん強い責任感を持って働いていることが分かった」など病院で働くことに好印象を持ったようでした。

（済生記者 今野正俊）

〈愛媛〉松山乳児保育園 花よりおやつ

新年度がスタートした4月5日、2歳児20人とクラスの保育



士3人でお花見をしました。

当園の園庭では桜、藤、枇杷、イチョウ、どんぐりなどが植えられています。桜の木は、はつきりとは分かりませんが40年以上前に植えられ、年々花の数は減ってきているものの今年もかわいい花を咲かせてくれました。その下にシートを敷いて、皆でおや

つを食べました。

この日のおやつは、手作りのヨーグルトパン、おしゃぶり昆布、牛乳。外で食べると普段よりもおいしく感じるようで、「おかわり〜」「まだいる〜」と、たくさん食べていました。花よりおやつ♪の子どもたちには思わず笑ってしまいました。

（済生記者 別府絵里）

いただく予定です。 （新棟建設準備室 澤本充史）



## 病児保育室が リニューアルオープン

〈大阪〉中津病院

大部屋もとても広くなり、よりたくさん子どもたちを預かることができるようになりました。新しいお部屋は子どもたちから

「なかなか予約が取れない」と好評の病児保育室が、昨年末、保護者の要望に応じて南棟5階にリニューアルオープンしました。隔離室が3部屋に増え、



も大人気で、窓から見える救急車やバスに皆大喜びです。

同じフロアには小児科外来や院内保育所も。受診もスムーズに行なえて、安心して働ける環境が整いました。

今後職員「育児」と「就労」の両立をサポートしていきたいよう取り組んでいきます。

（病児保育室長 上島知紗）

### 〈愛媛〉松山特養 ソメイヨシノに誘われて

当施設周辺では2月下旬から河津桜などが咲き始めますが、4月5日、当施設に植えてあるソメイヨシノが満開を迎えました。この時期を逃さず、利用者さん17人とお花見を兼ねた散歩



を体験し楽しみながら、一日一日を大切に過ごしていきます。

（済生記者 田中 静）

### 〈福岡〉大牟田医療福祉 センター

#### 「あつという間だったね」

3月5日、当センター職員の永年勤続表彰式を行ない、5年・10年・15年・20年勤続者計24人の功績を称えました。

筆者自身、20年勤続を迎えました。これまでのことを振り返るとさまざまな思いがよぎり、感慨深い気持ちになりました。記念撮影の後、「あつという間だったね」「また頑張ろう」と、互いに長年の労をねぎらいました。

医療業界は、変革の時代を迎えています。当院も20床のダウンサイジングに伴い、急性期病床を減少し、回復期機能病床として新たに地域包括ケア病棟を3月1日に開設しました。

新しい病棟編成のため慌ただしい毎日となっていますが、思いやりの心を忘れず、医療チームで協働し、患者・家族・地域の皆さんに信頼され選ばれる病院づくりを目指していきたいと



に出かけました。

当施設正面玄関には七段飾りのお雛様も飾り付けています。利用者さんと散歩に出かけることで春を感じることができ、桜の花を見ると皆さん、自然と笑顔に。伊豆の河津桜を夫婦で見に行った話や、お弁当持参で家族でお花見した話など、懐かしい思い出話にも花が咲きました。

（済生記者 畑中利恵）

### 〈石川〉こども園アイリス 桜、みつけた！

桜の咲くこの時期、年長クラスが恒例のお花見散歩に出かけます。今年は4月1日、当園から約1・5キロ先にある金沢市



や保育者と一緒に思いっきり春の自然に触れ、楽しんでいました。

来年の桜が咲く頃には、小学校に上がる子どもたち。これから1年、一緒にいろいろなこと



思います。

（看護部副部長兼病棟課長 木村真由美）

### 〈福岡〉特養むさし苑

#### 済生会の一員として スタート

晴天に恵まれた4月1日、新卒2人、中途採用5人の新入職員を迎え、入職式を行いました。皆さん緊張した面持ちの中、



真剣な眼差しで田中俊太施設長から交付された辞令を受け取っていました。

田中施設長の挨拶、幹部職員の激励の言葉に続き、オリエンテーションを実施。担当する筆者から済生会の理念、むさし苑グループの就業規則、給与規程、福利厚生倶楽部などについて説明しました。

（済生記者 岸川涼二）



〔石川〕金沢病院

新入職者37人  
青空の下スタート

4月1日、医師・薬剤師・看護士ら37人の新入職者を迎えます



した。荒木勉院長からは能登半島地震で被災した多くの患者さんを当院で受け入れていることや、新入職者の中にも被災した者がいることに触れ、地域の医療を



守るため職員協働で一歩ずつ前に進んでいきたいとの言葉があり、新入職者とともに「地域医療への貢献」を再確認する日となりました。

続いて行なわれた新入職研修では、済生会の使命、当院の理念と基本方針をはじめ、石川県地域がん診療連携推進病院としての役割、チーム医療などについて学びました。災害発生時の対応についての質問もあり、登

フォローを  
お願いします！

4月1日、遅ればせながら、公式インスタグラムを開設しました。

これまで、当院から患者さんや地域の皆さんへの発信は年3回の広報誌とホームページに限られ、お知らせしたい情報をすぐに知らせることができない、ホームページを見てもわからないと伝わらないといった課題がありました。

インスタグラムでリアルタイムに当院の取り組みや雰囲気発信することで、より多くの方が当院のことを知り、親しみやすさを感じてもらえればと思います。

当面は、患者さん向けに入院食や設備の紹



〔福岡〕二日市病院

院基準などについての説明がありました。当日は天候に恵まれ、3階中庭で記念撮影を行なうことができました。

（済生記者 辻 清美）



介、地域住民向けに相談会やフェアのご案内、リクルート向けに勉強会や研修の様子など幅広い情報を発信していきます。フォローは4月15日時点で83人。ぜひフォローと「いいね！」をお願いします。

（経営戦略課 都甲七桜）

山形済生病院

新たな仲間とともに学ぶ

今年度、新たに61人の仲間が入職しました。そのうち、新入職員53人を対象とした「新採用



熊本福祉相談支援センター

事業所間の連携強化で  
支援の質の向上を目指す

熊本市障がい者相談支援センターとさいせいは2月21日、長寿の里地域交流センターで「第4回障がい福祉ネットワーク会議」を開催しました。

当日は相談支援事業所職員や行政関係者ら約20人が参加。熊本県ホームヘルパー協議会の田尻亨会長を講師に招き、「ヘルパーによる支援の在り方や本人の自立支援の観点に立ったマネ



ジメント」についてお話いただきました。講話後はグループワーク形式で意見交換。ヘルパー不足や支援範囲を超えた依頼への対応など、さまざまな地域課題を共有しました。本会議を通して、利用者本人を中心により具体的な情報共有をしていく「連携」が相互理解を深め、現実的で持続的なサービス提供につながることを改めて実感しました。

（相談支援専門員 住野理麻）





〔埼玉〕 加須病院  
58人が入職  
新体制スタート

4月1日に入職式を行ない、医師・研修医18人、看護師32人、その他の職種8人の総勢58人が新たに入職しました。また、今年度から臨床研修医の定員が増え、過去最高の7人が医師として踏み出す2年間を当院で過ごすこととなりました。

当日は病院の機能についての講演や接遇マナーなどのオリエンテーション後、各部署で加須病院の医療従事者として勤務を開始しました。

また、今年度から板橋道朗院長が就任。「患者さんに真摯に向き合い、患者さんやその家族に心温まる医療を提供する。チーム医療を中心に展開し、地域の方に信頼される病院を目指していきたい」と抱負を述べました。(済生記者 蓬田絵里子)

〔埼玉〕 川口総合病院  
金沢病院への看護師派遣  
報告会で思いを語る

3月21日、金沢病院への看護師派遣報告会を職員向けに開き



ました。

能登半島地震の災害支援のため全国の済生会病院から金沢病院へ看護師が派遣され、当院からは3人の看護師が約2週間ずつ支援活動を行いました。報告会では、その一人である看護師の伊藤美香さんが「初めて行く知らない土地、病院で、急変時にもモニターや器具の場所がすぐに分からず、自分は本当に役に立っているのだろうかと考えてしまった……」と、現地での思いを語りました。

これに対し、救急の元師長である濱田日登美さんは「いてくれるだけでスタッフにとっても患者さんにとっても心の支えに



設基準管理士」の資格を取得しました。

施設基準管理士は、病院が行う施設基準の届け出を総合的に管理・運用する専門知識とスキルを獲得するための資格制度(4月現在、全国の資格所有者数1303人)です。松本課長補佐は「資格取得に

〔なでしこ連携医の集い〕  
知識深める機会に

「第6回なでしこ連携医の集い」を、3月14日に有田医師会との共催で開催しました。

当日は約60人の地域の先生方や関係者が参加。第一部は当院の瀧藤克也院長が座長を務め、当院の小畑香寿美糖尿病看護認定看護師・看護課長が「済生会

有田病院における糖尿病患者の実態調査」を発表。続いて「地域連携における現状報告と今後の展望について」を筆者が、「済生会有田病院眼科の現状報告」を井上貴久彦眼科部長がそれぞれ登壇して話しました。

第二部は当院の伊藤秀一総長が座長を務め、ひだか病院の今西敏雄副院長が「心不全治療における新展開 SGLT 阻害薬の役割」について解説しました。今回は数年ぶりに懇親会も実施。地域の先生方からは「知識を深める機会となった」などのお言葉をいただきました。(済生記者 大向伸正)

〔鳥取〕 境港総合病院  
施設基準管理士資格取得

経営企画課の松本和典課長補佐が4月1日付けで、日本施設基準管理士協会が認定する「施

なる」と話しました。済生会は全国に83病院あり、人材教育や災害派遣時など、そのスケールメリットを生かせることが強み。今回の看護師派遣では、全国各地から集まった同士たちとの別れがとても寂しく感じるほど、強い絆で結ばれたようです。(済生記者 原 衣里奈)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、こ報告ください。

声援の力で初マラソン完走!

2月18日、14629人がエントリーし開催された熊本城マラソン2024。大牟田病院リハビリテーション部からも、私を含め職員6人が参加しました。

30歳を過ぎ、運動不足解消のため初参加を決意した私ですが、いくら練習を重ねても不安は募るばかり……。そこで、同じリハビリテーション部のマラソン経験者にアドバイスを

をもらいながら調整していきまし。その結果、私を含め全員が無事完走することができました。

熊本城マラソンは例年、沿道の応援者が多いことで人気の大会。声援の後押しがあったからこそ完走できた……そう思えるほどに心強いものでした。

大会記録をみると、60代・70代の方で私より何時間も早くゴールしている人も! 日々の運動の積み重ね





の大切さとともに、年齢は関係ない  
ということに改めて感じました。今  
後は記録にもこだわり、継続参加し  
ていきます。

(福岡・大牟田病院)

リハビリテーション部 原 周生

★運動不足、何とかせねばと思い始  
めてはや○年。また健診の季節が  
巡ってきてしまいました(汗)。  
(メデイカル・リーフ 坂本陽子)

**13年間お世話になりました**

3月31日、本部の山内敦広報道担  
顧問が勇退されました。広報室長と  
して入職され、13年間、済生会の広  
報にご尽力いただき、この機関連誌「済



生」の形も作り上げられました。

私が広報室(現・広報課)に配属  
されて1年間、広報とは何か、済生  
会の歴史や役割、学校では学ばな  
かった自然や生物の知見まで幅広く  
多くのことを教えていただきました。

まだまだ聞きたい話はたくさんあ  
り寂しいですが、山内さんが教えて  
くれたことを忘れずに頑張ります！  
本当にありがとうございます。

(本部広報課 杉山菜央)

**皆の思いをのせて**

ご覧下さい！廊下を悠々と泳  
ぐ龍の姿を。

今年は辰年ということで、職員と  
利用者さん総勢8人で「龍」の制作  
に挑戦。約4カ月の制作期間を経て、  
3月15日、ついに完成しました。

「すごい！完成したんじゃないー！」  
と拍手する利用者さん、「すてきな一  
年になりますように」と手を合わせ  
る利用者さん。体の色付け、鱗作り、  
ひげ作りなど、もちろん全てにおい  
て手作り。背中を伸ばし青々と天井  
を泳いでいる龍は、職員もびつくり  
の完成度です。

昨年12月に制作を開始し、「ここ  
は、こうしたらどうかかな」「こうし  
よーと思よーる」などと真剣に話し  
合いながら進行。うねる体に蛇腹ダ



コツコツと約1万個の花を張り付け  
て、桜の映えスポットが完成しまし  
た。

そんな満開の桜をバックに、4月  
6日、お花見カフェを開催！記念  
撮影中には「私たちもこの桜のよう  
に散りませ〜ん！」と、いつまでも  
お元氣宣言をした入居者の皆さん。  
お元氣さもキラキラ笑顔も、満開の  
桜に負けていませんよ！

とはいえ、本物の桜も楽しみたい  
ので、お花見カフェ後、駐車場に咲  
く大きな桜の木の下まで散策に出か  
けました。

こちらの桜も満開で、肌寒さも忘  
れて見入る皆さんの視線の先には、  
空を埋め尽くすように広がる淡〜い  
ピンクの花々が…。来年もまた一  
緒に来ようと約束をする春の日の午



**満開の桜 来年もまた一緒に**  
今年の春はのんびり屋さんだった  
のか、暖かくなるのが待ち遠しかつ  
た4月初旬。エレベーターホールに描  
いた伊豆の河津桜風の壁画に、「花咲  
かおばさんたち(職員3人)」が毎日

後でした。

(大阪・軽費老人ホームケアハウス  
つつじ荘 生活相談員  
安達麻由子)

★散らない桜も散る桜も楽しめて、  
春大満喫ですね。いつまでも、皆さ  
んの笑顔の花が満開でありますよう  
に。(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

**出産記念に思い出の一枚を**

3月29日、周産期母子医療セン  
ターの新生児室前にフォトスポット  
を設置しました。「出産したママさん  
とご家族が、赤ちゃん誕生の喜びを  
記念に残せるような撮影スポットを  
つくりたい」という助産師の思いか  
ら実現したものです。

パネルはピンクを基調にした明る  
く可愛らしいデザイン。「出産、2人  
3脚で頑張ったね」と赤ちゃんとマ  
マさんで撮影するもよし、「生まれる



のを待っていたよ〜」とご家族で撮  
影するもよし。自由にご利用くださ  
い！

ここで撮影した写真が、各々のご  
家族の思い出の一枚になりますよう  
に……。

(静岡済生会総合病院 済生記者  
酒井あい)

★私の友人も出産でお世話になっ

**次号予告**  
**済生** No.1140 [令和6年6月号]

済生会の不易流行論 (189) 炭谷 茂  
NEWSな済生人  
済生会交差点  
この人 釈由美子  
口福につぼん (81)  
5種の焼きカレーパン(広島市)  
てづくりおもちゃ いまいみさ

ダクトとは目からうろこです……！

(本部広報課 杉山菜央)

**大活躍！ 当選プレゼント**

ハートフル済生会では、入居者さ  
ん12人と週2回のサロン活動でカレ  
ンダー作りをしています。「済生」の  
連載コーナー「だれでもかんとんて  
づくりおもちゃ」をお手本に折り紙  
作品を作り、手作りカレンダーとコ  
ラボレーション。季節感あふれるオ  
リジナルカレンダーが完成します。  
今年も折り紙作家・いまいみささん



の「決定版おりがみ図鑑」が大活躍。  
この本は昨年11月に当選した「済生」  
10月号の読者プレゼントで当選した  
ものです。とてもうれしい贈り物で  
した。  
正月飾りやお雛さまなど、入居者さ



えっ…?  
 買い物好きの  
 あの子まで……



最近、  
 将来に備えて  
 貯金し始めたの



人生に必要な「お金」を  
 FPが教えます!

済生会グループ保険

もしかして…  
 ノープランなの、  
 あたしだけ!?

済生会の職員なら  
**誰でも  
 申込OK!**

# ライフプランニング 体験会

**WHAT'S LIFE PLANNING?**  
 あなたの人生にこれから必要となるお金と、そのお金をどのように準備すればいいかを専門家(FP)のアドバイスをもとにまとめ上げるものです。あなたの夢を実現するためのプランを一緒に作りましょう!

お申込みは  
 こちらから  
 →



当日はどれだけ参加者が来るのか不安でしたが、11時の開始を前に一人、また一人とやって来て、実施時間中は途切れることはなかったです。「体験できますか?」と聞いてきた団体さんは、目の不自由な方が活動

北海道支部が協賛したチーム「火の玉ストレート」

いる、地元ママにとって頼れる病院。楽しい時間が増えそう!  
 (大空出版・静岡支部 山西涼子)  
**皆で楽しくポッチャ!**  
 重度の脳性まひ者や同程度の重度障害が四肢にある人のために考案されたユニバーサルスポーツのポッチャ。北海道済生会ではポッチャを地域に普及させようと、3月17日、大型商業施設「ウイングベイ小樽」で体験会を開催しました。



する「ラビット会」の皆さん。簡単な説明を終え、指導員が目標近くで手を叩くと、そこに向かって上手にボールを投げて皆で拍手! 約1時間の体験を楽しみ、「また来ます」と言ってくれました。  
 済生会は社会福祉法人としてユニバーサルスポーツに力を入れるべきだと思えます。参加した皆さんが笑顔になるのがとてもうれしく、励みになりました。  
 (北海道済生会 ソーシャルインクルージョン推進室長 清水雅成)  
 ★パラリンピックで「ポッチャ」という競技を知りました。私の苦手な頭脳戦スポーツ……。  
 (本部広報課 大嶋 薫)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。  
 以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。  
 戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
 会長 潮谷義子  
 理事長 炭谷 茂  
 本部 東京 支部 40都道府県  
 病院 81  
 診療所 20  
 介護医療院 2  
 介護老人保健施設 28  
 介護施設 1  
 児童福祉施設 25  
 老人福祉施設 120  
 障害者福祉施設 9  
 看護師養成施設 7  
 訪問看護ステーション 64  
 地域包括支援センター 31  
 地域生活定着支援センター 5  
 その他 10  
 合計 403 (数字は令和4年度)  
 さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。  
 職員数は全国で約6万4000人。

**済生** [令和6年5月号]  
 THE NEWSLETTER of  
 Social Welfare Organization  
 Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.  
 令和6年5月10日発行  
 通巻第1139号 (第100巻第5号)  
 編集兼 炭谷 茂  
 発行人  
 発行所 社会福祉法人 済生会  
 〒108-0073  
 東京都港区三田1-4-28  
 三田国際ビルヂング21階  
 TEL: 03-3454-3311 (代)  
 FAX: 03-3454-5576  
 印刷所 株式会社白橋  
 東京都中央区八丁堀4-4-1  
 ©社会福祉法人 済生会





熊本、松山から「愛」をお届けします!



熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」  
 熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428



松山ワークステーション「なでしこ」  
 愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959



## 焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。  
 熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。  
 商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。  
 どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー(左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ)



♥ギフトボックス(クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)



♣くまドレーズ(くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ)



♠元祖クッキー(片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!  
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。

